

安平町

地域公共交通計画

資料編



令和 4 年 6 月

目次

1 住民アンケート調査	1
2 ニュースレターの発行	43

1 住民アンケート調査

(1) 調査概要

【調査目的】

安平町民の移動実態（生活圏や移動頻度、移動時間帯など）や今後の運転移行や公共交通に対するニーズから移動困難者の把握を目的に調査を実施しました。調査結果を地区別や個人属性別で集計を行うことで、地区ごとに異なるニーズの明確化や真に公共交通を必要としているターゲット層を把握します。

【調査対象】

15歳以上の安平町居住者

【調査方法】

対象世帯に対して郵送配布・郵送回収（一部 WEB）により、調査を実施しました。

- ・ 配布世帯数：3,544 世帯
- ・ 配布日：令和3年9月4日
- ・ 回収数：486 票（回収率：13.7%）

【調査項目】

問 1) 個人属性

- ・ 年齢、性別、職業、居住地、自動車の保有・利用状況、自動車運転困難となった場合の移動手段、運転免許返納後の困難となる目的

問 2) 外出の際に困っていること

- ・ 外出の際に困っていること、困っていることが解消された場合の外出頻度向上

問 3) 日頃の交通行動（買い物・通院・私用）

- ・ 外出頻度、目的先へ行く時間帯、目的先から帰る時間帯、目的先（地域）、交通手段など

問 4) 安平町の公共交通について

- ・ 各公共交通の利用頻度、現行の安平町バスサービスの認知度

問 5) 安平町の公共交通の取組について

- ・ 路線バス・デマンドバスの満足度、各種公共交通施策の認知度、公共交通を維持する場合の考え方、公共交通の方向性について感じる事

【集計方法】

※グラフの「nの値」は回答の総数を指し、無回答や無効回答などは除いた数。

安平町の公共交通をより良くするためのアンケート調査

- ◎選択肢に○印をつける質問には「1つだけ」、「いくつでも」「○つまで」の3種類ございます。
◎質問中で()がある部分には、質問内容を踏まえた具体的な記述をお願いします。

質問1 あなたご自身のことについて、お答えください。

(1) あなたの年齢をお答えください。(1つだけ○印)

- ①10代 ②20代 ③30代 ④40代 ⑤50代
⑥60歳～64歳 ⑦65歳～74歳 ⑧75歳以上

(2) あなたの性別をお答えください。(1つだけ○印)

- ①男性 ②女性

(3) あなたの職業をお答えください。(1つだけ○印)

- ①会社員 ②自営業 ③公務員 ④パート・アルバイト ⑤学生
⑥主夫・主婦 ⑦無職 ⑧その他()

(4) あなたの居住地を郵便番号でお答えください。(記入)

〒(059 - _____)

(5) あなたは自動車免許と自動車を持っていますか。(1つだけ○印)

- ①免許も自動車も持っている ➡ (6)～(8)もお答えください。
②免許はあるが、自動車は持っていない ③以前は免許を持っていたが今は持っていない
④免許を持ったことがない

(6) (5)で①免許も自動車も持っている方にお聞きします。

あなたは何歳ごろまで運転すると思いますか。(1つだけ○印)

- ①()歳頃まで自動車を運転する ②自動車の運転を辞めるつもりはない
③今の段階では分からない

(7) (5)で①免許も自動車も持っている方にお聞きします。

将来、自動車の運転が困難になった場合の移動について、どのように考えますか。(主なもの1つだけ)

- ①JRを利用する ②バスを利用する ③ハイヤーを利用する
④徒歩・自転車を利用する ⑤福祉移送などの外出支援サービスを利用する
⑥家族や知り合いに送迎してもらう ⑦徒歩で移動しやすい場所へ引越す
⑧外出を控える ⑨その他()

(8) (5)で①免許も自動車も持っている方にお聞きします。

運転免許を返納した場合に、困る事がありますか。(いくつでも○印)

- ①買い物に行けない ②病院に行けない ③仕事が出来なくなる
④自分の趣味の活動ができない ⑤家族や知人の送迎の足が無くなる
⑥困ることはない ⑦その他()

質問2 あなたの外出実態について、お答えください。

(1) 現在、外出で移動の際に最も困っていることをお答えください。(1つだけ○印)

- ①公共交通の使い方が分からない ②公共交通の運賃が高くて使いづらい
③公共交通の時間が合わない ④家族や知人に頼るしかない
⑤困ると感じたことがない ⑥その他()

(2) (1)で困っていることが改善された場合、外出頻度が増えると考えますか。(1つだけ○印)

- ①増えると思う ②変わらない ③分からない

次のページにお進みください ➡

質問3 日ごろの交通手段についてお答えください。

質問3-1 買い物(食料品・日用品等)について

(1) 買い物に行く頻度をお答えください。(1つだけ○印)

- ①ほぼ毎日 ②週3, 4回 ③週1, 2回 ④月数回
⑤主にトドック等の宅配や移動販売車を利用 質問3-2へお進みください
⑥めったに行かない

(2) 買い物に行く主な曜日をお答えください。(いくつでも○印)

- ①月曜日 ②火曜日 ③水曜日 ④木曜日 ⑤金曜日
⑥土曜日 ⑦日曜日 ⑧特に決まっていない

(3) 買い物でよく利用する場所をお答えください。(1つだけ○印)

具体的な店名も教えて下さい。

- ①安平町内 ②苫小牧市 ③千歳市 ④厚真町 ⑤その他()
→主に利用する店名(1つだけ): ()

(4) 主に利用する買い物先に到着する時間帯と買い物先での滞在時間をお答えください。(時間を記入)

買い物先に 到着する時間帯	<input type="checkbox"/> 午前 <input type="checkbox"/> 午後 ()時台	買い物先の 滞在時間	()時間()分 ※バスやハイヤーの待ち時間を除く
------------------	--	---------------	-------------------------------

(5) 買い物時の主な移動手段をお答えください。(いくつでも○印)

- ①自分の自動車 ②家族や知人の送迎・同乗 ③徒歩・自転車 ④町の循環バス
⑤デマンドバス ⑥あつまバス ⑦JR ⑧ハイヤー
⑨その他()

質問3-2 通院について

(1) 病院・クリニックに行く頻度をお答えください。(1つだけ○印)

- ①ほぼ毎日 ②週3~4回 ③週1~2回 ④月数回
⑤めったに行かない 質問3-3へお進みください。

(2) 病院に行く主な曜日をお答えください。(いくつでも○印)

- ①月曜日 ②火曜日 ③水曜日 ④木曜日 ⑤金曜日
⑥土曜日 ⑦日曜日 ⑧特に決まっていない

(3) 通院でよく利用する場所(最も頻度が多い場所)をお答えください。(1つだけ○印)

具体的な病院名も教えて下さい。

- ①安平町内 ②苫小牧市 ③千歳市 ④厚真町 ⑤その他()
→主に利用する病院名(1つだけ): ()

(4) 主に利用する病院に到着する時間帯と病院での滞在時間をお答えください。(時間を記入)

病院に到着する 時間帯	<input type="checkbox"/> 午前 <input type="checkbox"/> 午後 ()時台	病院での 滞在時間	()時間()分 ※バスやハイヤーの待ち時間を除く
----------------	--	--------------	-------------------------------

(5) 通院時の主な移動手段をお答えください。(いくつでも○印)

- ①自分の自動車 ②家族や知人の送迎・同乗 ③徒歩・自転車 ④町の循環バス
⑤デマンドバス ⑥あつまバス ⑦病院の移送サービス
⑧JR ⑨ハイヤー
⑩その他()

次のページにお進みください

質問3-3 私用交通(サークル活動、教室・習い事、など)について

(1)私用(サークル活動、教室・習い事など)で外出する頻度をお答えください。(1つだけ○印)

- ①ほぼ毎日 ②週3~4回 ③週1~2回 ④月数回
 ⑤めったに行かない **→ 質問4へお進みください。**

(2)私用でよく利用する場所をお答えください。(1つだけ○印)

具体的な施設名も差し支えない範囲で教えてください。

- ①安平町内 ②苫小牧市 ③千歳市 ④厚真町 ⑤その他(_____)
→主に利用する施設名(1つだけ):(_____)

(3)主に利用する施設に到着する時間帯と施設での滞在時間をお答えください。(時間を記入)

施設に到着する 時間帯	<input type="checkbox"/> 午前	(_____)時台	施設での 滞在時間	(_____)時間(_____)分
	<input type="checkbox"/> 午後			※バスやハイヤーの待ち時間を除く

(4)私用移動の主な移動手段をお答えください。(いくつでも○印)

- ①自分の自動車 ②家族や知人の送迎・同乗 ③徒歩・自転車 ④町の循環バス
 ⑤デマンドバス ⑥あつまバス ⑦JR ⑧無料送迎バス ⑨ハイヤー
 ⑩その他(_____)

質問4 公共交通の利用状況や認知度について、お答えください。

(1)公共交通の移動手段別の利用頻度をお答えください。(それぞれ1つだけ○印)

	ほぼ毎日	週3~4回	週1~2回	月数回	めったに 利用しない
1. JR	1	2	3	4	5
2. あつまバス(千歳線、苫小牧線、沼ノ端線、早来線)	1	2	3	4	5
3. 町の循環バス	1	2	3	4	5
4. デマンドバス	1	2	3	4	5
5. ハイヤー	1	2	3	4	5
6. 公共交通全体の利用頻度	1	2	3	4	5

(2)公共交通の移動手段別の認知度をお答えください。(それぞれ1つだけ○印)

	知っている	あまり 知らない	知らない
1. JR	1	2	3
2. あつまバス(千歳線、苫小牧線、沼ノ端線、早来線)	1	2	3
3. 町の循環バス	1	2	3
4. デマンドバス	1	2	3
5. 居住地区で利用できるハイヤー	1	2	3

次のページにお進みください **→**

質問5 公共交通の課題や今後の取り組みについて、お答えください。

(1)あつまバス(千歳線、苫小牧線、沼ノ端線、早来線)の満足度をお答えください。(それぞれ1つだけ○印)

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	分からない
1. 運賃	5	4	3	2	1	0
2. 運行経路	5	4	3	2	1	0
3. 乗車している時間	5	4	3	2	1	0
4. バス停の配置	5	4	3	2	1	0
5. 運行便数	5	4	3	2	1	0
6. 利用の分かりやすさ	5	4	3	2	1	0
7. JR との時間的な接続	5	4	3	2	1	0
8. バスとバスの時間的な接続	5	4	3	2	1	0
9. 総合的な満足度	5	4	3	2	1	0

(2)町の循環バスの満足度をお答えください。(それぞれ1つだけ○印)

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	分からない
1. 運賃	5	4	3	2	1	0
2. 運行経路	5	4	3	2	1	0
3. 乗車している時間	5	4	3	2	1	0
4. バス停の配置	5	4	3	2	1	0
5. 運行便数	5	4	3	2	1	0
6. 利用の分かりやすさ	5	4	3	2	1	0
7. JR との時間的な接続	5	4	3	2	1	0
8. バスとバスの時間的な接続	5	4	3	2	1	0
9. 総合的な満足度	5	4	3	2	1	0

次のページにお進みください 

(3) デマンドバスの満足度をお答えください。(それぞれ 1 つだけ○印)

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	分からない
1. 運賃	5	4	3	2	1	0
2. 登録方法 (利用には事前登録が必要)	5	4	3	2	1	0
3. 予約方法 (電話又はインターネット)	5	4	3	2	1	0
4. 予約のタイミング (2週間前～当日1時間前 ※朝の第1～2便は前営業日まで)	5	4	3	2	1	0
5. 運行便数	5	4	3	2	1	0
6. 利用の分かりやすさ	5	4	3	2	1	0
7. JR との時間的な接続	5	4	3	2	1	0
8. バスとバスの時間的な接続	5	4	3	2	1	0
9. 総合的な満足度	5	4	3	2	1	0

(4) 安平町では公共交通の利便性向上や利用促進の取り組みを実施しています。

各種取り組みの認知度をお答えください。(それぞれ 1 つだけ○印)

	知っている	あまり知らない	知らない
1. 安平町の公共交通 (毎年全戸配布する時刻表、バスマップ、乗り方ガイド等を掲載したパンフレット)	1	2	3
2. 安平町共通回数乗車券 (JR、バスやデマンドバス、ハイヤーで使えるプレミアム付きの券、現金購入額に応じたポイントあびら付与)	1	2	3
3. 要請に応じて開催する出張説明会 (自治会やサークルなどでの要請があった場合に開催)	1	2	3
4. 公共交通相談窓口 (役場にて相談を受付)	1	2	3
5. 高齢者や障がい者等への運賃助成事業 (生活保護世帯や80歳以上の方等に共通回数乗車券を交付する制度)	1	2	3
6. 運転免許自主返納者支援事業 (免許返納者に共通回数乗車券を交付する制度)	1	2	3
7. あびらチャンネルを活用した公共交通情報の発信 (CM の放映、文字データ放送での情報提供)	1	2	3
8. MONET によるデマンドバスの配車システム (スマートフォン予約アプリ)	1	2	3

次のページにお進みください ➡

(5)町財政が厳しくなる中、今後の公共交通の維持のあり方について、あなたの考え方を教えてください。
(3つまで○印)

- ①事業者が利便性を高めるなど、自助努力が必要
- ②町が経費をさらに負担してサービスの充実を図る必要がある
- ③さらに利用者の助成(割引制度)を拡充して、利用者を確保する必要がある
- ④公共交通利用者が利用頻度を上げる必要がある
- ⑤公共交通利用者がより高い運賃を払う必要がある
- ⑥自動車利用者も積極的に公共交通を利用するなど、生活スタイルを変える必要がある
- ⑦地域住民が運転手を担うなど、公共交通の運営に積極的に参加し、公共交通を維持する
- ⑧現状で利用者が少ない公共交通は、運行便数の減便や路線廃止も仕方ないと思う
- ⑨その他()

(6)これらの状況を踏まえ、今後の地域公共交通の取組を進めるうえで、以下の施策例の中からあなたにとって優先度の高いものをお答えください。(5つまで○印)

- ①乗継割引や高齢者割引等の運賃負担を軽減する取組の検討
- ②利用したい時間・曜日を充実し、利用の少ない時間・曜日は減便するなど、便数調整の検討
- ③目的地まで行きやすくするきめ細かなバス停配置の検討
(ただし、全体の運行経路が長くなる可能性があります)
- ④よく利用されるバス停を中心に早く移動できる快速バス等の検討
- ⑤少年団や習い事の送迎に対応した移動支援の検討
- ⑥情報通信技術を活用した効率的な運行サービスの検討
(AIによる自動配車・経路選択による車両の効率的運用)
- ⑦バスとJRの接続時間を短くする乗継利便性の検討
- ⑧住民団体主導による公共交通運営の検討
(運行経路や便数などのニーズに柔軟に対応する共助の仕組みによる公共交通の検討)
- ⑨インターネットによりバスがどの辺りを運行しているのかがリアルタイムに分かるサービスの検討
(バスロケーションシステムなど)
- ⑩MaaS(スマートフォンなどで目的地までの移動手段や経路、運賃などが分かり、予約すると決済までできる移動を総合的に支援するサービス)の導入検討

(7)仮に、普段利用しているバスがなくなった場合、日常的にハイヤーを利用しようと思いますか。(1つだけ)
また、その際の想定される利用目的をお答えください。(いくつでも○印)

【利用可能性(1つだけ○印)】

- ①通常料金でも利用する
- ②通常料金の半額であれば利用する
- ③バスの運賃と同じくらいであれば利用する
- ④運賃に関わらず利用しない

【利用目的(いくつでも○印)】

- ①通勤・通学
- ②買い物
- ③通院
- ④その他の私用
- ⑤その他()

(8)新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、生活スタイルが変化してきていますが、現在の公共交通の利用は、新型コロナウイルス感染拡大以前「コロナ前」と比較した変化をお答えください(1つだけ○印)

- ①元々公共交通を利用していない
- ②公共交通の利用は特に変えていない
- ③公共交通は出来る限り利用しなくなった
- ④公共交通を完全に利用しなくなった
- ⑤JRやバスからハイヤーへの利用に切り替えた
- ⑥その他()

(9) 安平町の今後の公共交通のあり方として、課題や意見があればご自由にお聞かせください。

質問は以上です。ご協力いただきまして、ありがとうございました。



公共交通に関する

住民意見交換会 延期のお知らせ

緊急事態宣言の発令を受け、10月に延期することとしました

広報笑顔 8月号でお知らせしておりました公共交通に関する住民意見交換会について、緊急事態宣言の発令を受け、10月に延期することといたしました。

開催日時	9月8日(水) 11:00~	9月9日(木) 10:30~	9月9日(木) 19:30~	9月13日(月) 10:30~	9月17日(金) 19:00~
会場 (所在地)	安平公民館 (安平165)	しののめ交流館 (早来大町103)	役場総合庁舎 (早来大町95)	ぬくもりセンター (追分中央40)	遠浅公民館 (遠浅125)



下表に延期

下表からご都合の良い時間と場所を自由にお選びいただきご参加ください。(事前申込不要)

開催日時	10月 6日(水) 10:30~	10月 12日(火) 10:30~	10月 21日(木) 10:30~	10月 21日(木) 夜 19:00~	10月 22日(金) 夜 19:00~
会場 (所在地)	安平公民館 (安平165)	ぬくもりセンター (追分中央40)	しののめ交流館 (早来大町103)	役場総合庁舎 (早来大町95)	遠浅公民館 (遠浅125)
【問い合わせ先】安平町役場 政策推進課政策推進グループ 担当:高橋・郡 ☎0145-22-2751					

《ご協力をお願い》

今後の安平町の公共交通をより良いものにするため、住民の皆さんと一緒に考え、意見を伝える場ですので、より多くの方々のご参加をお待ちしております。

・・・感染防止のため、マスク着用にご協力をお願いします。・・・

(3) 調査結果

問1. あなたご自身のことについて、お答えください。

Q1. 年齢

回答者の年齢は、75歳以上(32.8%)が最も多くなっており、65～74歳(25.5%)、50歳代(12.5%)と続いています。

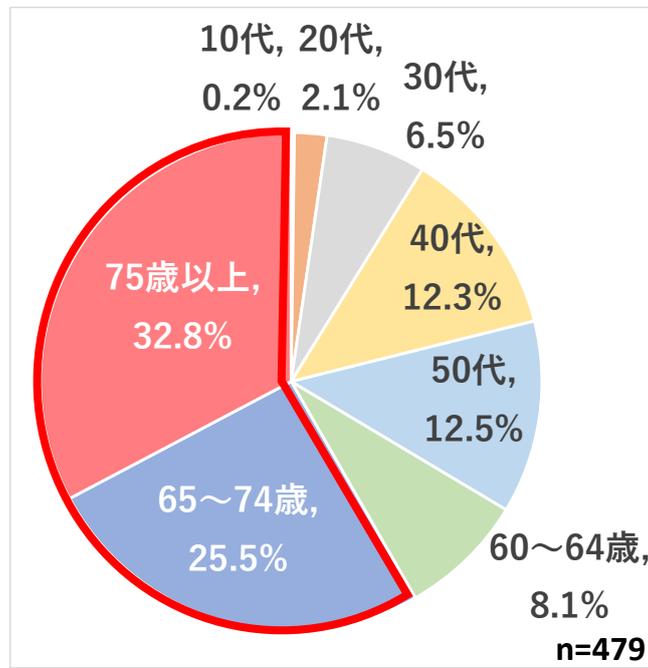


図 1-1 年齢

Q2. 性別

回答者の性別は、男性(43.8%)、女性(56.2%)となっています。

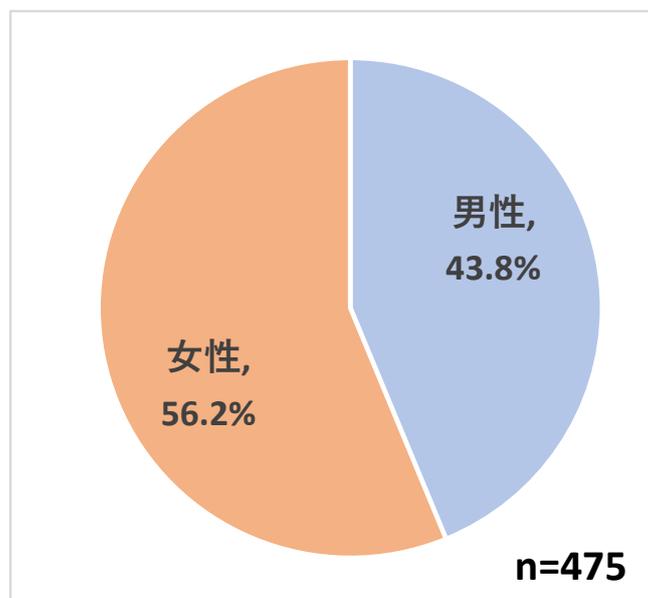


図 1-2 性別

Q3. 職業

回答者の職業は、無職（37.1%）が最も多く、主夫・主婦（17.1%）、パート・アルバイト（14.6%）と続いています。

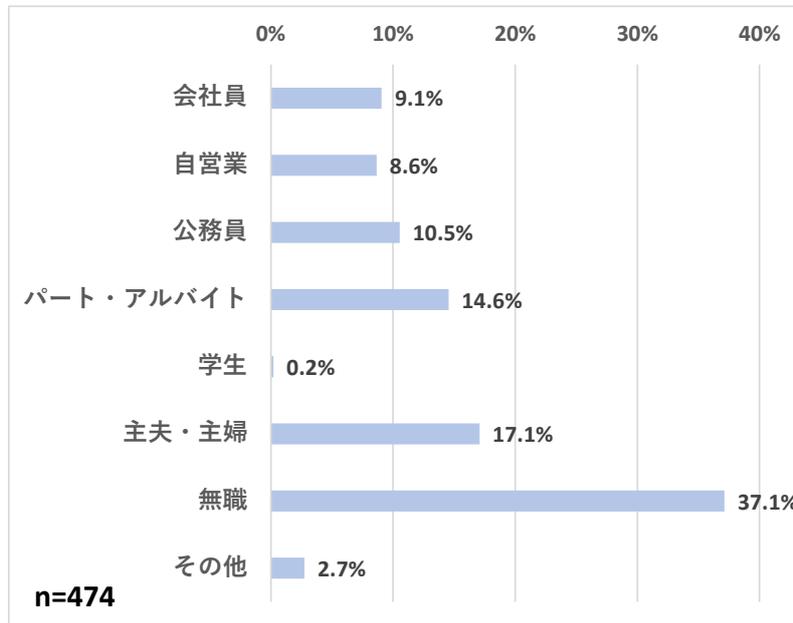


図 1-3 職業

Q4. 居住地

回答者の居住地は、多い順に追分地区（45.2%）、早来地区（36.1%）と続いています。

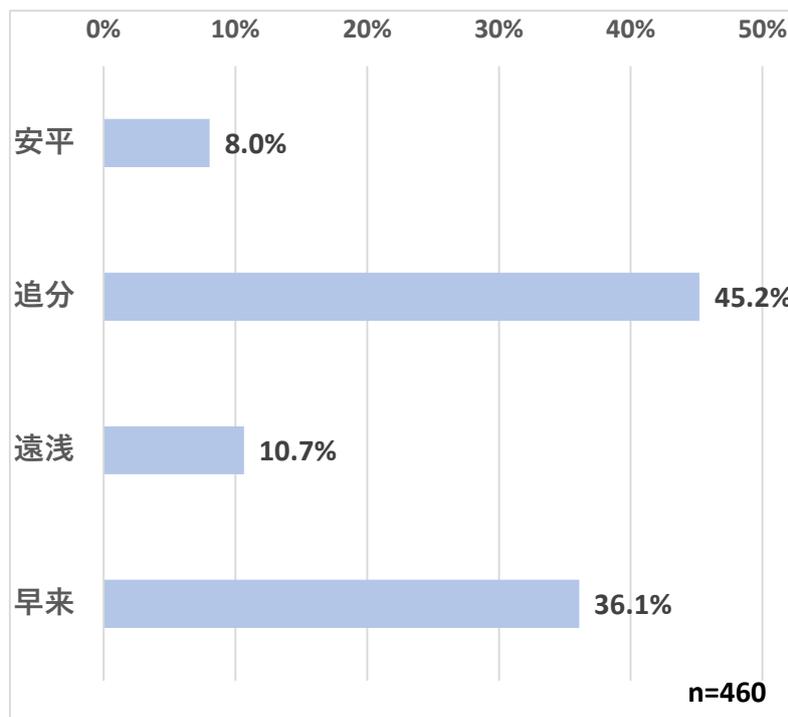


図 1-4 居住地

Q 5. 自動車免許と自動車の保有状況

免許と自動車の保有状況は、免許も自動車も持っている（73.7%）という回答が最も多く、免許を持ったことがない（14.7%）が続いています。

年齢別の自動車の保有・利用状況を見ると、60歳以上では年齢が高くなるにつれ、自動車の保持率も免許の保持率も低くなっています。また、高齢になるほど免許返納をしている割合も高くなっています。

他にも、75歳以上では免許を持ったことがないと答えた方が約3割いる状況です。

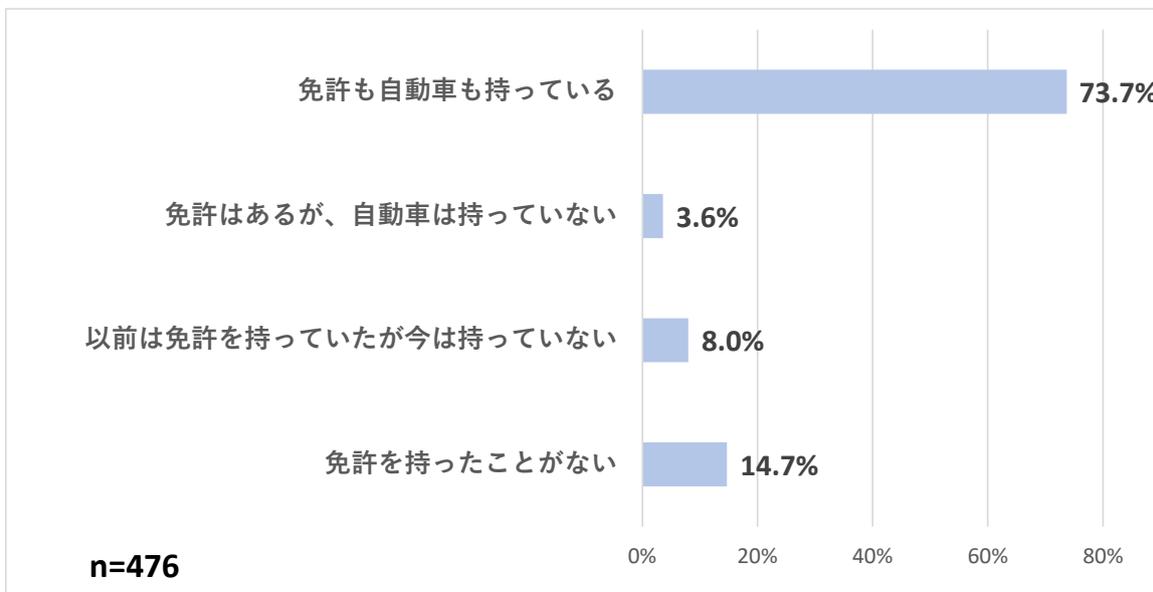


図 1-5 免許と自動車の保有状況

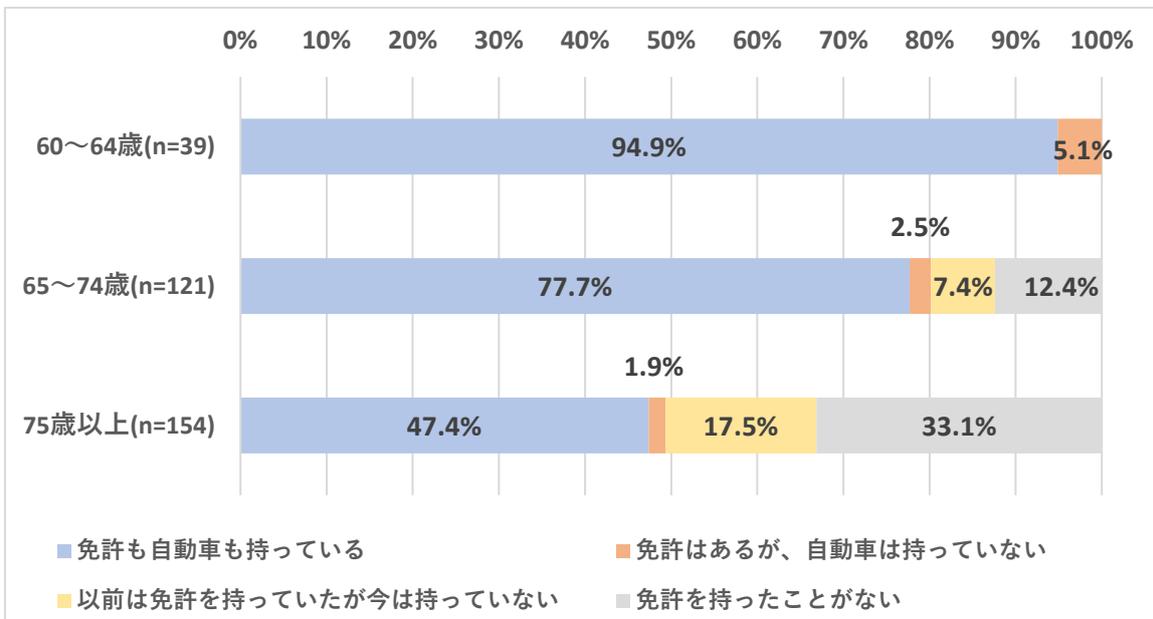


図 1-6 年齢別自動車の保有・利用状況

Q6. 運転意向（運転している方のみ）

何歳まで運転したいかについては、分からない（46.7%）が最も多く、80～84歳（16.0%）、70～74歳（11.7%）が続いています。

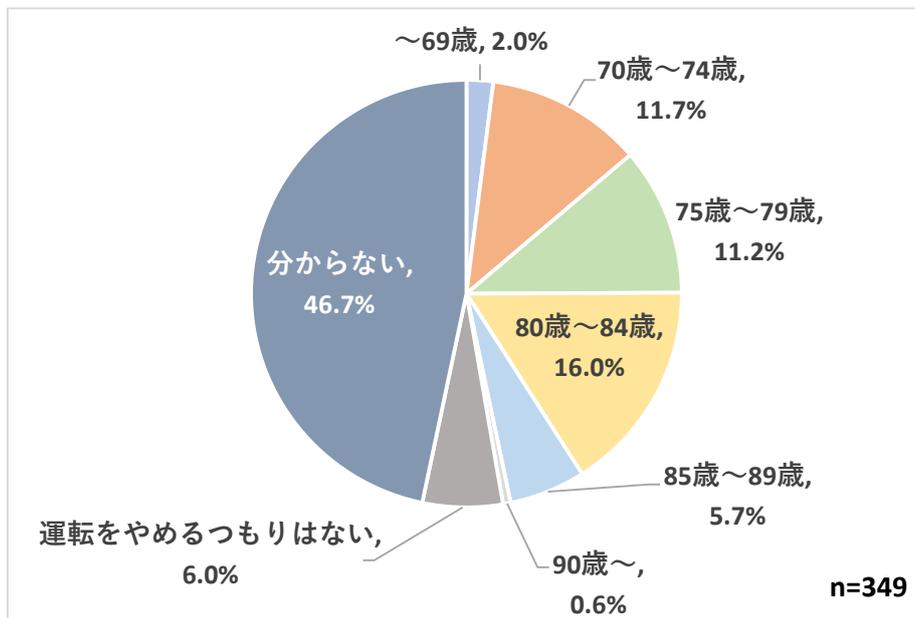


図 1-7 何歳まで運転をしたいか

居住地別の自動車の運転継続の意向を見ると、全地区でわからないと答えた割合が40%を超えています。また、75歳以上まで運転を続けたいと思っている割合がどの地区でも約4割を占めています。

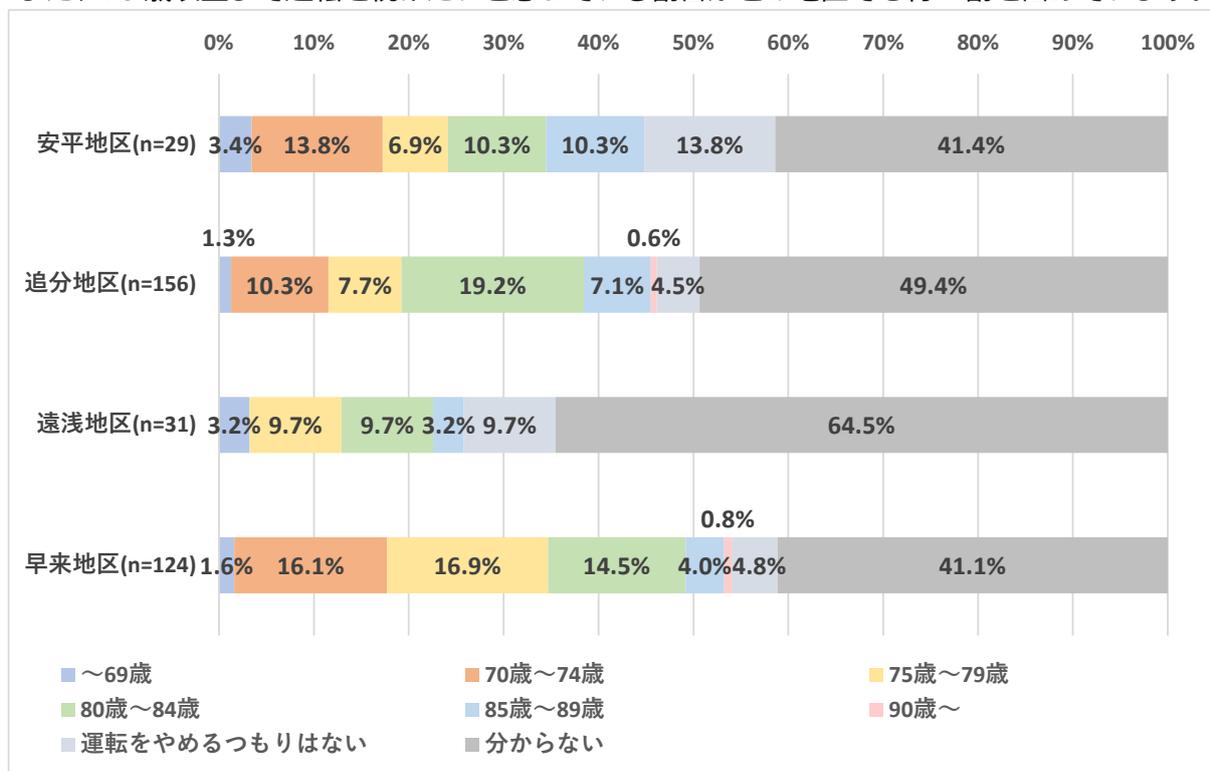


図 1-8 居住地別今後の運転継続の意向

Q7. 将来、自動車の運転が困難になった場合の移動（運転している方のみ）

運転が困難になった場合はバスを利用するという回答（23.6%）が多く、次にJRを利用（16.9%）、ハイヤーを利用（12.1%）が続いています。

年齢別の免許返納後の移動手段を見ると、50代以上では将来はバスを利用すると答えた割合が一番高くなっています。また、年齢が上がるにつれて外出支援サービスを利用したいと答えている割合が増え、引っ越したいと答えている割合が減っています。

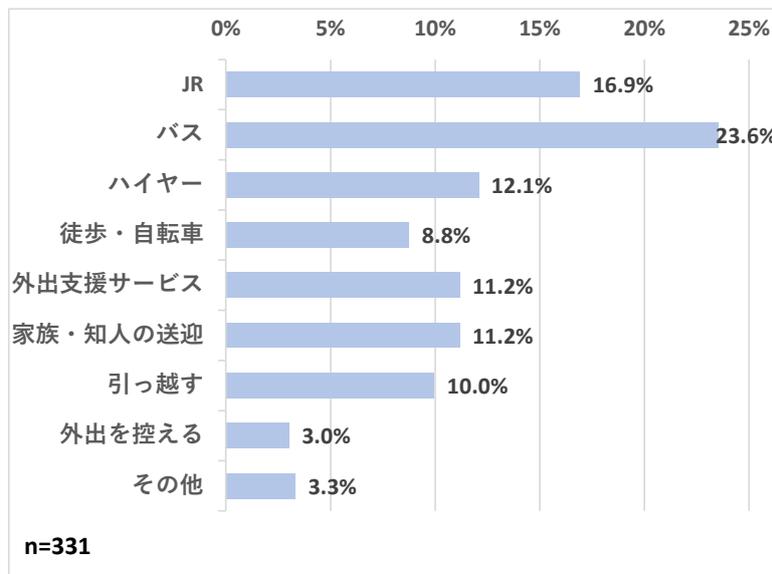


図 1-9 運転が困難になった場合の移動手段

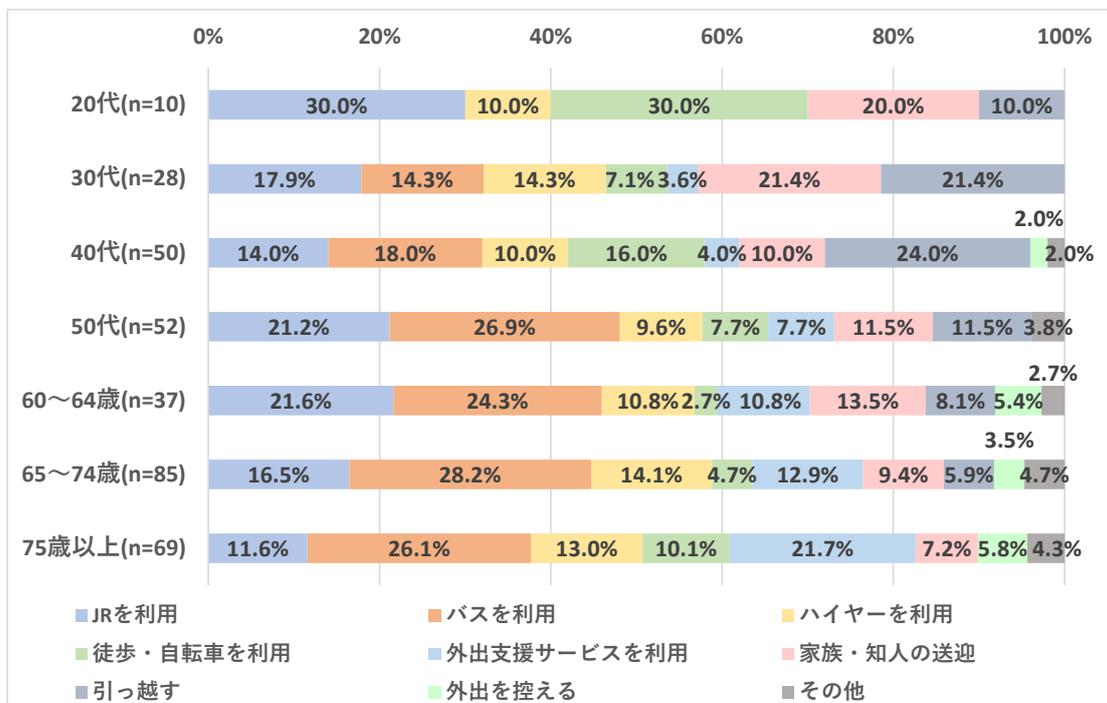


図 1-10 年齢別の免許返納後の移動手段

Q 8. 運転免許を返納した場合に、困る事（運転している方のみ）

免許を返納した際に困る事として、買い物に行けない（81.8%）、病院に行けない（77.2%）が多くを占めました。

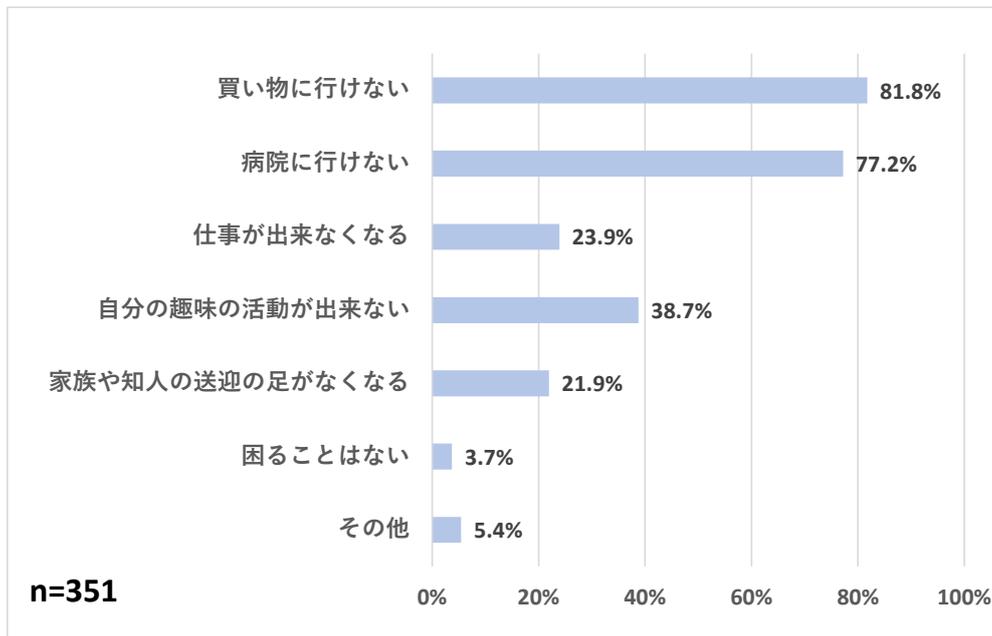


図 1-11 免許を返納した場合に困ること

問2. 外出実態について

Q1. 外出で移動の際に最も困っていること

困っていないと答えた割合が最も多く(40.7%)、時間が合わない(33.0%)、家族や知人に頼るしかない(9.1%)と続いています。

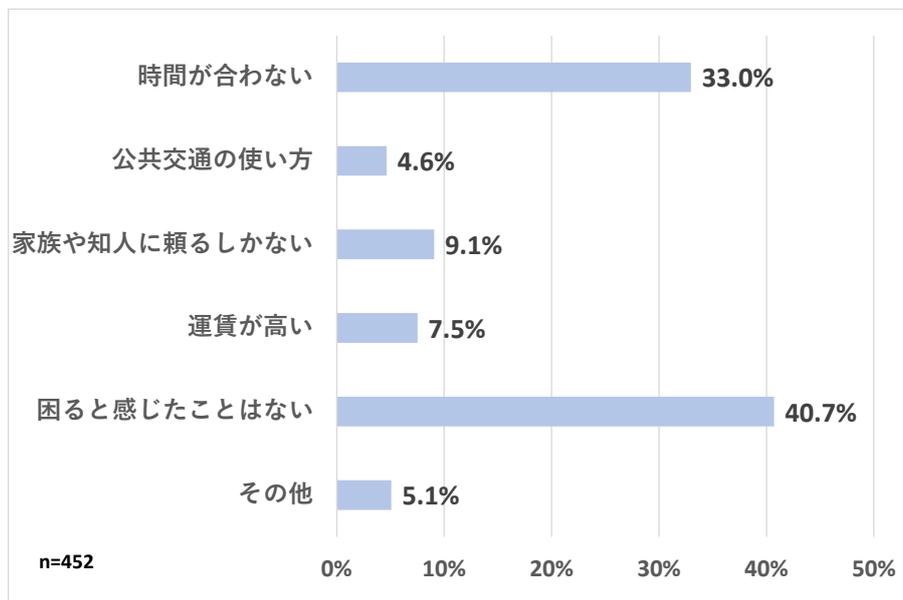


図 1-12 外出の際に困っていること

外出時に困っていることを75歳以上、75歳未満の回答者に分けてみると、75歳未満では困ると感じたことがないが多くを占め、「時間が合わない以外」は10%を下回っている一方、75歳以上では困ると感じたことがないが比較的 low、時間が合わない、家族や知人に頼るしかないという回答が20%以上を占めています。

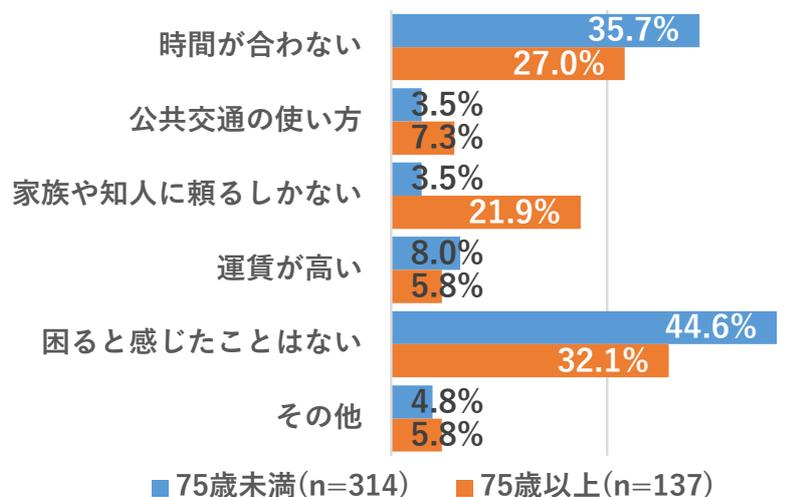


図 1-13 年齢別外出時に困っていること

Q2. 困っていることが改善された場合の外出頻度の変化

困っていることが解決すると外出頻度が増えると思うと答えた割合が最も多くなりました(40.7%)。

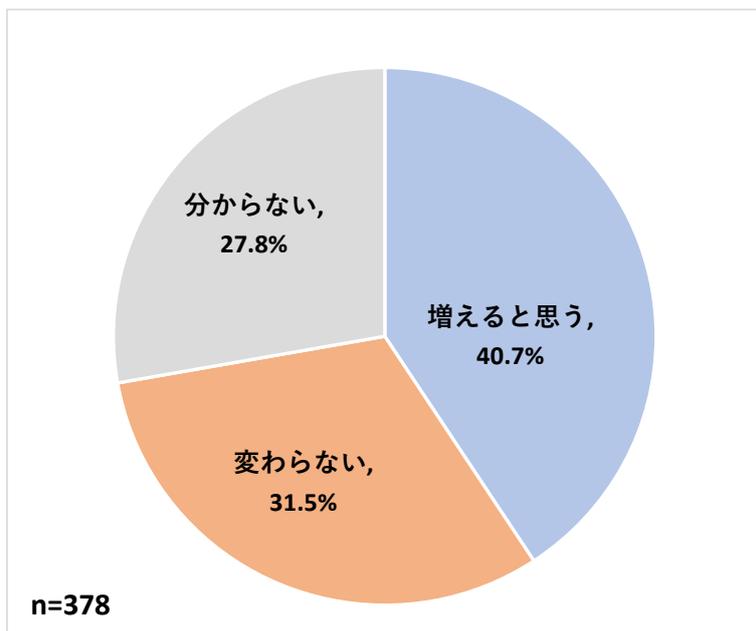


図 1-14 (1)が改善された場合の外出頻度

地区別に外出の際に困っていることを見ると、困ると感じたことはないがどの地区でも約 4 割以上を占めています。また、早来地区では他の地区と比べて時間が合わないと答えた割合が比較的高くなっています。

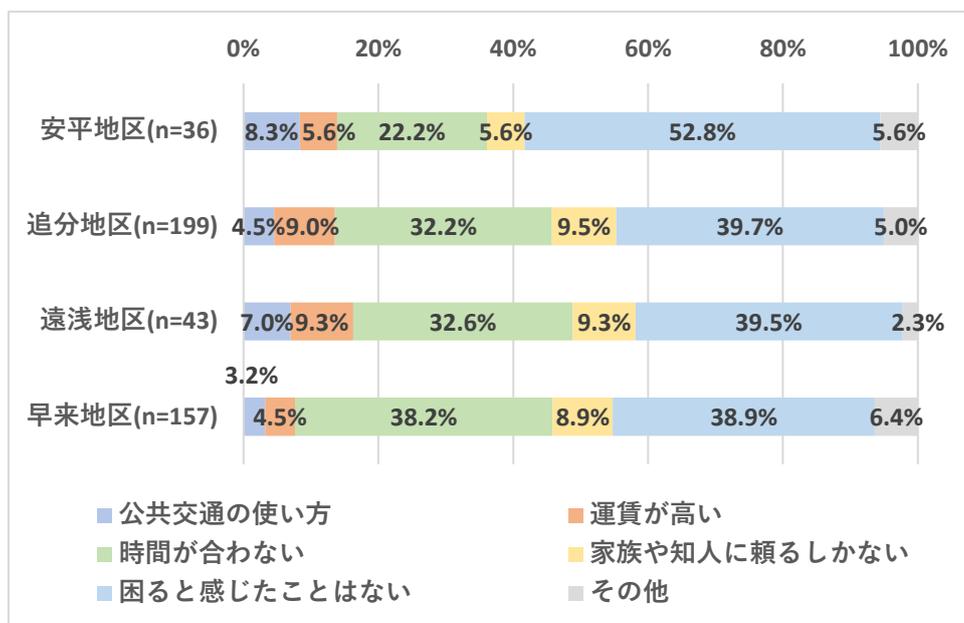


図 1-15 地区別外出時に困っていること

問3. 日頃の交通手段

問3-1. 買い物（食料品・日用品等）について

Q1. 買い物に行く頻度

買い物に行く回数は週に1～2回が最も多く（55.4%）、月数回（14.9%）、週3～4回（14.6%）が続いています。

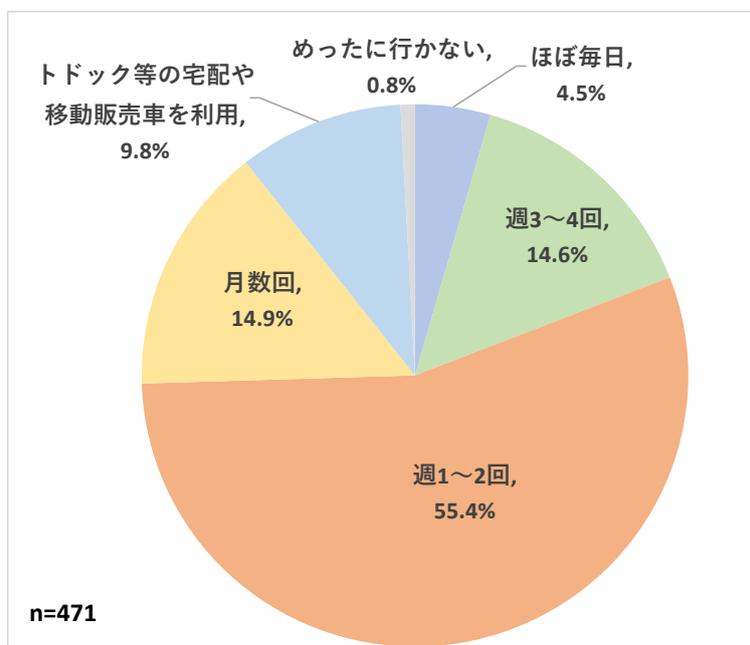


図 1-16 買い物に行く頻度

年齢別に買い物に行く頻度を見ると、年齢を経るにつれて利用の頻度が落ちており、75歳以上では2割が月に数回しか買い物に行かないと答えています。また、60歳代から宅配や移動販売車を利用している割合も増えており、高齢になるほど買い物で外に出る回数が減っています。

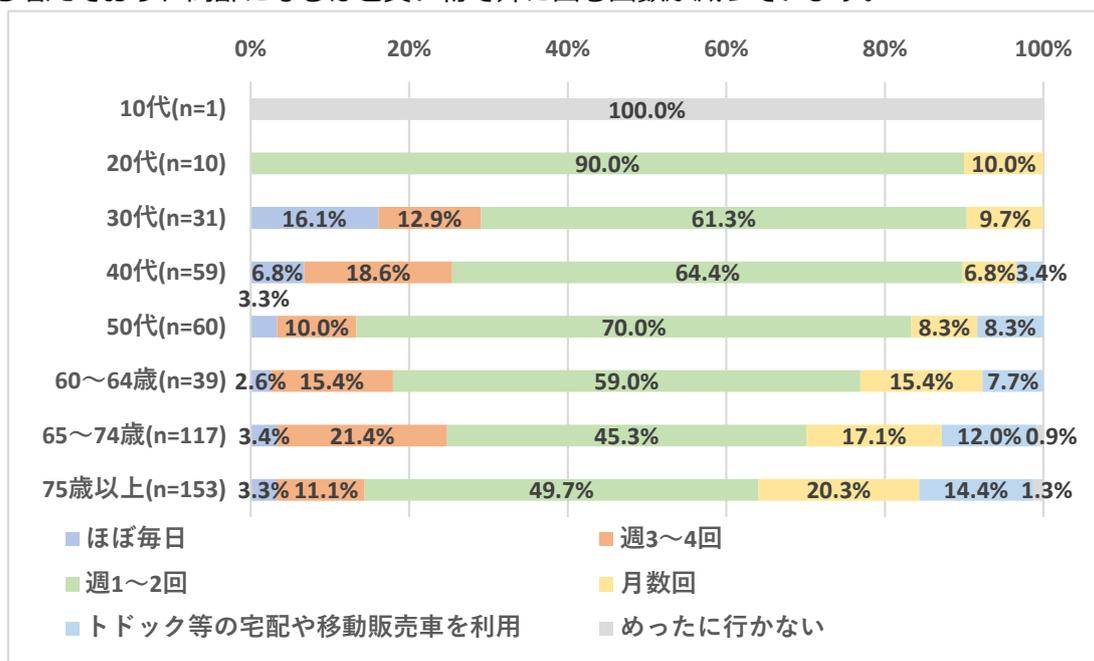


図 1-17 年齢別買い物頻度

Q2. 買い物に行く主な曜日

買い物に行く曜日は特に決まっていなが半数以上(54.6%)おり、その他では土曜日(30.4%)、日曜(25.7%)が多くなっています。

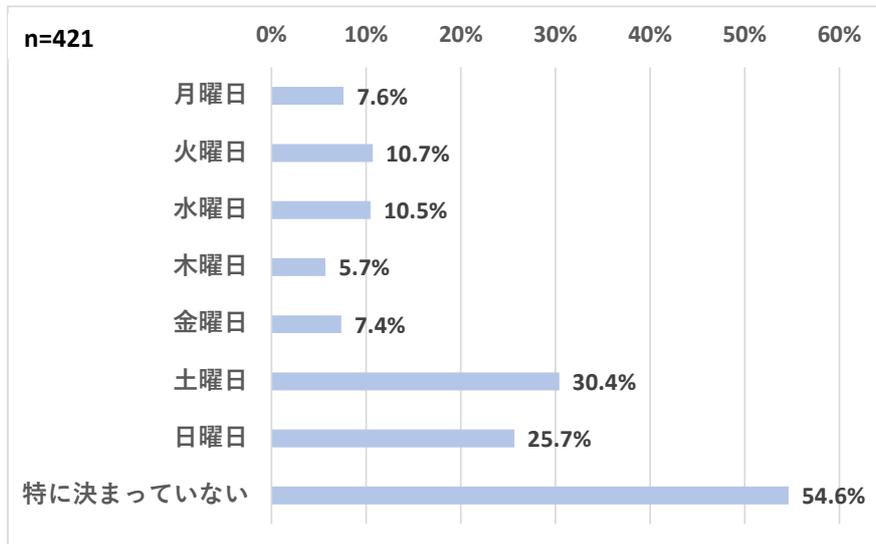


図 1-18 買い物に行く曜日

Q3. 買い物でよく利用する場所

買い物の目的地については千歳市(33.0%)が最も多くなりましたが、苫小牧市(32.5%)、安平町内(32.3%)とほぼ横並びでした。また、今回のアンケートでは厚真町を目的地とする回答者はいませんでした。

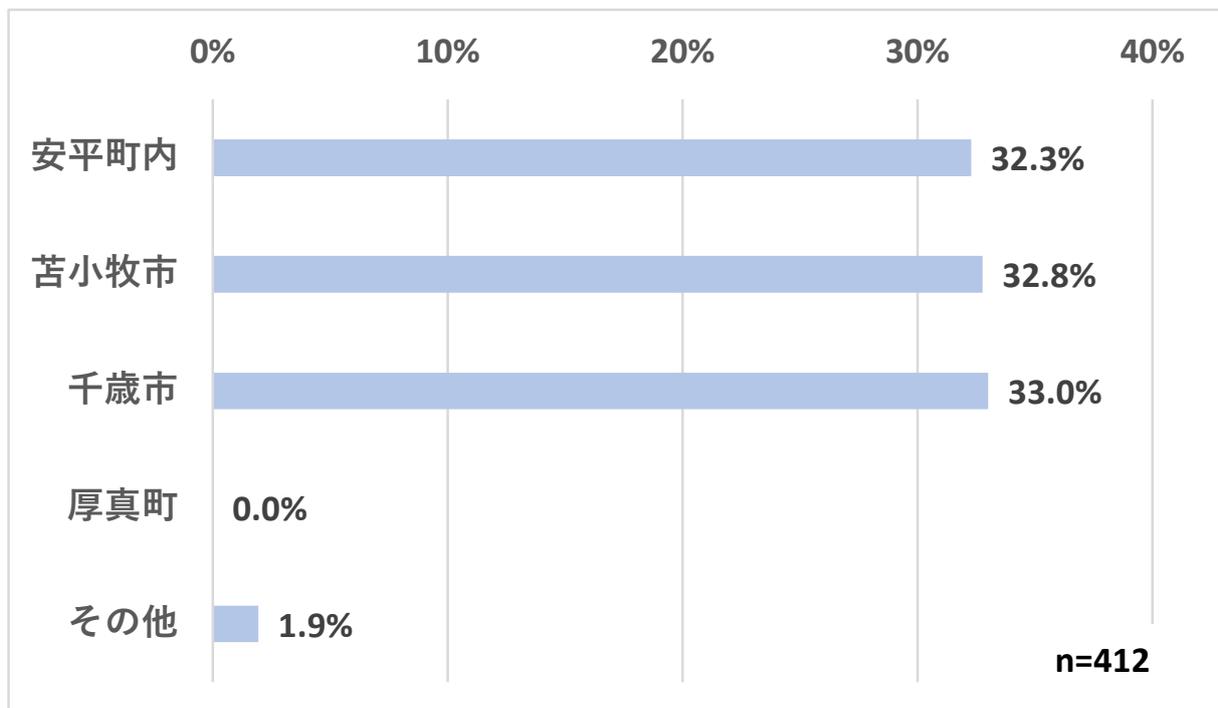


図 1-19 買い物の目的地

地区別の買物でよく利用する場所を見ると、追分地区では千歳市、遠浅地区では苦小牧市に買い物に行っている割合が高くなっています。

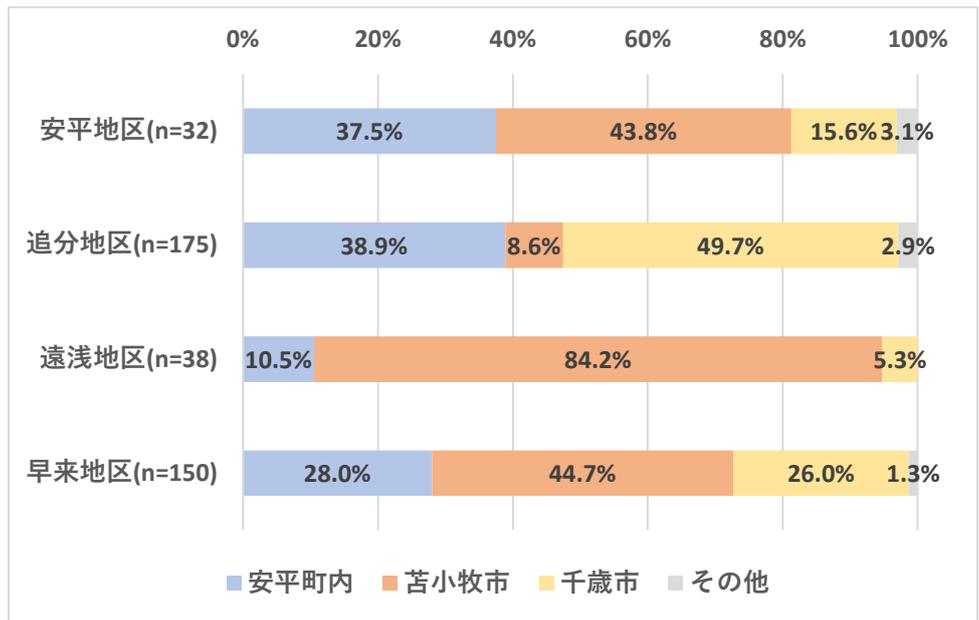


図 1-20 地区別買い物でよく利用する場所

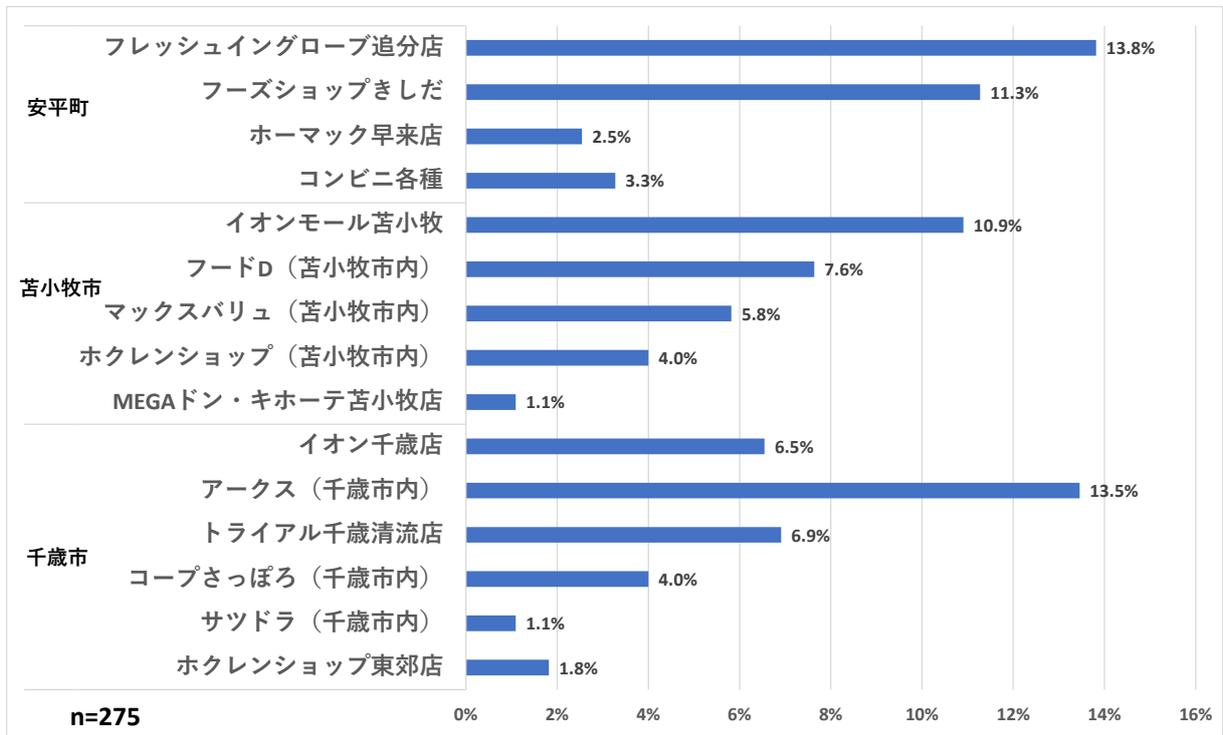


図 1-21 買い物の具体的な目的地

Q 3. 買い物先に到着する時間帯と買い物先での滞在時間

買い物では1時間半以内の滞在が多くを占めましたが、2時間以上滞在すると答えた人も約2割いました。

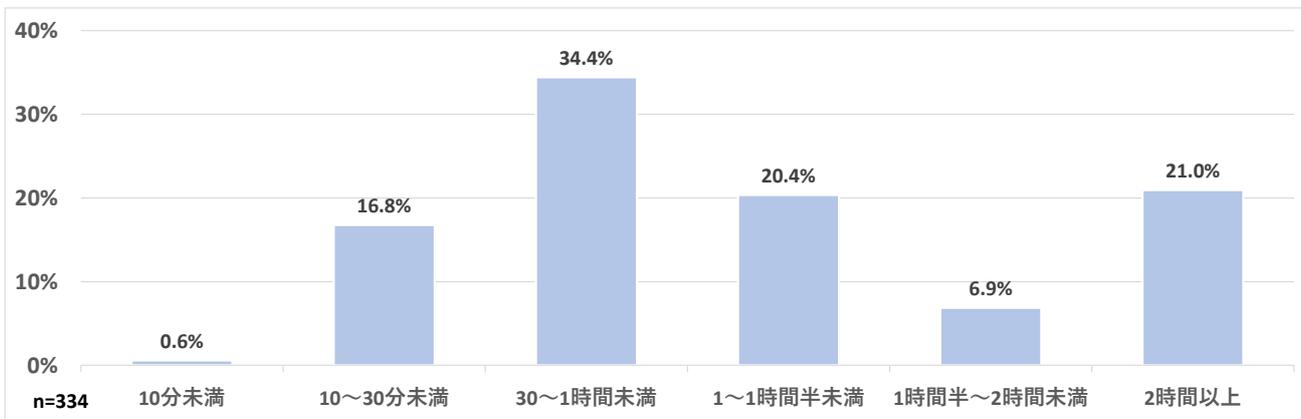


図 1-22 買い物先の滞在時間

買い物先に到着する時間としては10時台が多く(22.4%)、10時台、11時台に買い物をしている人が多くなっています。

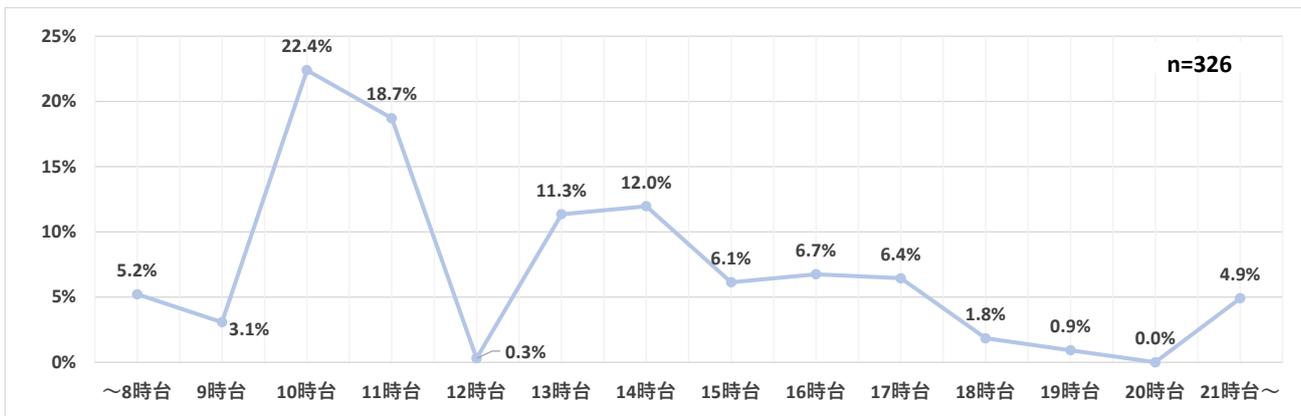


図 1-23 買い物先に到着する時間

Q 4. 買い物時の主な交通手段

買い物の交通手段については自分の車が大多数を占め(56.3%)、次に家族や知人の送迎・同乗(13.5%)、徒歩・自転車(12.9%)と続いています。

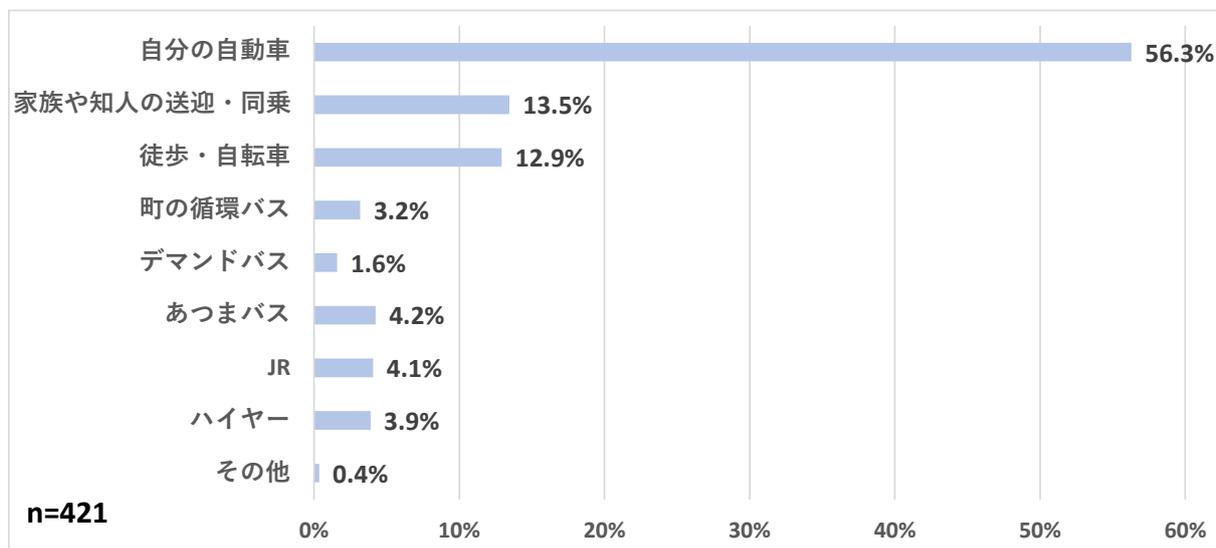


図 1-24 買い物時の交通手段

年齢別の買い物先への移動手段は、年齢が増すごとに自分の自動車と答えている割合が減っていき、75歳以上では5割を下回っています。また、年齢が増すことで主に増えているのは家族や知人の送迎・同乗や徒歩・自転車、ハイヤーです。

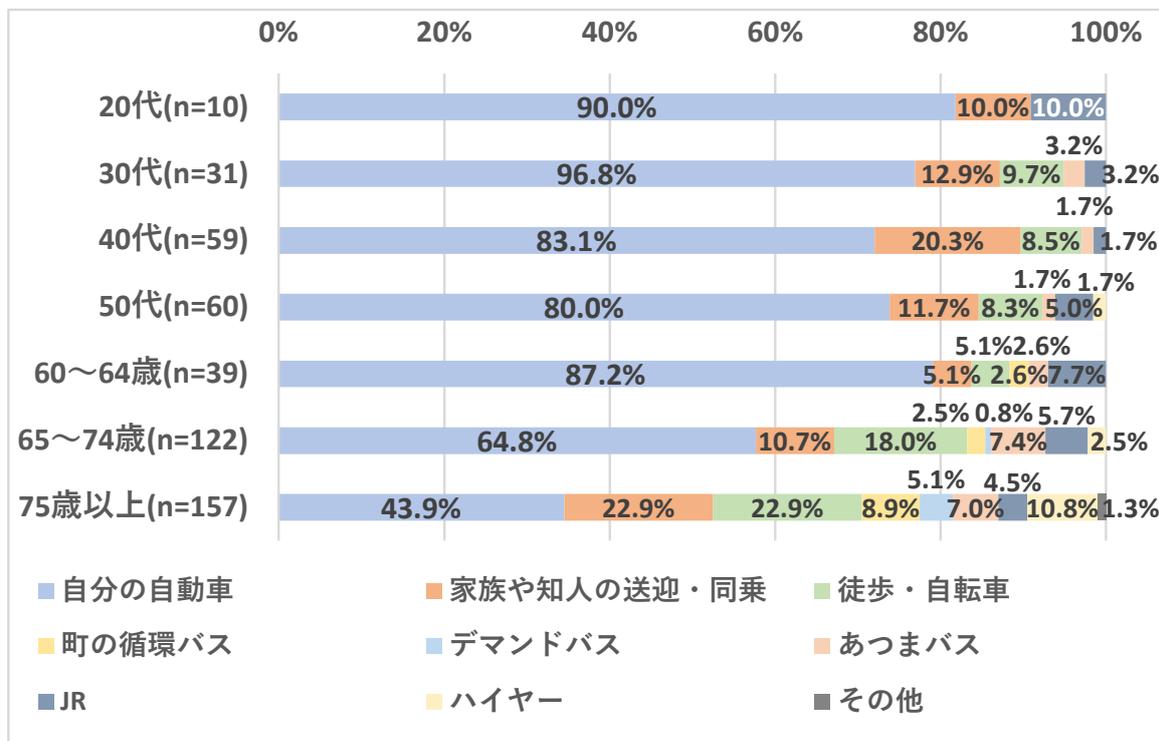


図 1-25 年齢別買い物への移動手段

問3-2. 通院について

Q1. 病院・クリニックに行く頻度

病院に行く回数は月数回が最も多く（48.4%）、めったに行かない（47.6%）が続いています。

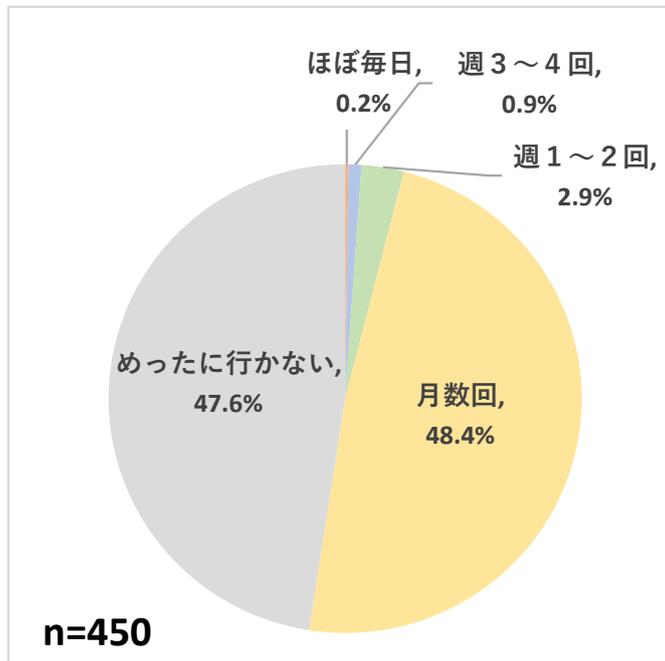


図 1-26 病院に行く頻度

年齢別に通院頻度を見ると、年齢が上がるにつれて頻度が上がっています。75歳以上ではめったに行かないと答えた割合が25%以下で、7割以上の回答者が月数回以上病院に行くことと回答しています。

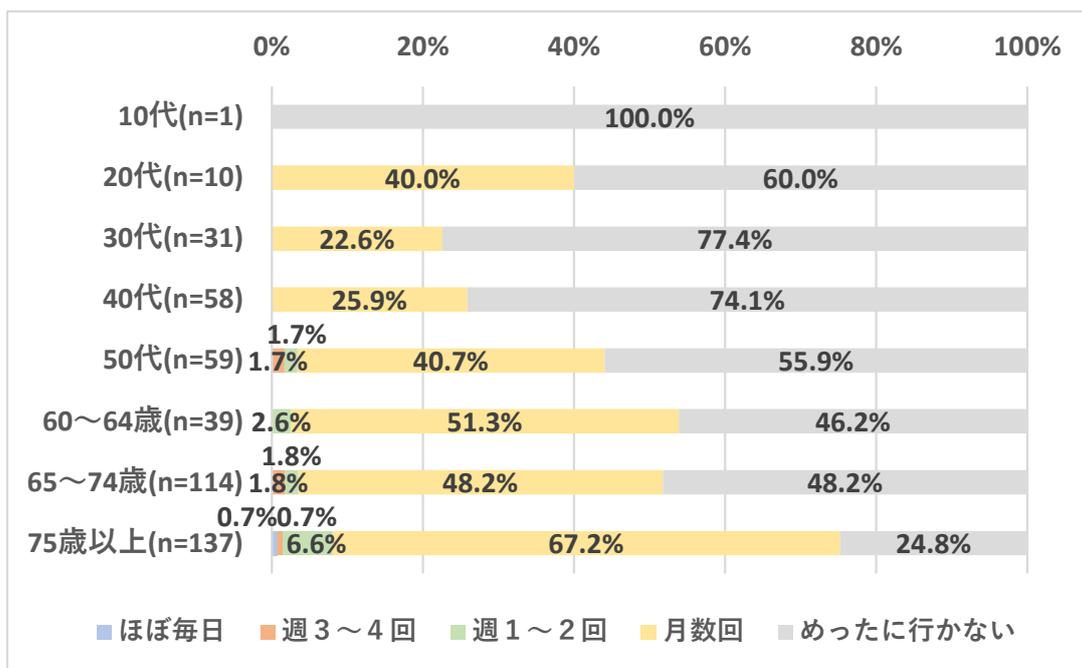


図 1-27 年齢別通院頻度

Q2. 病院に行く主な曜日

病院に行く曜日は特に決まっていないと答えた人が 35.1%おり、その他では平日が概ね 10%前後となっています。

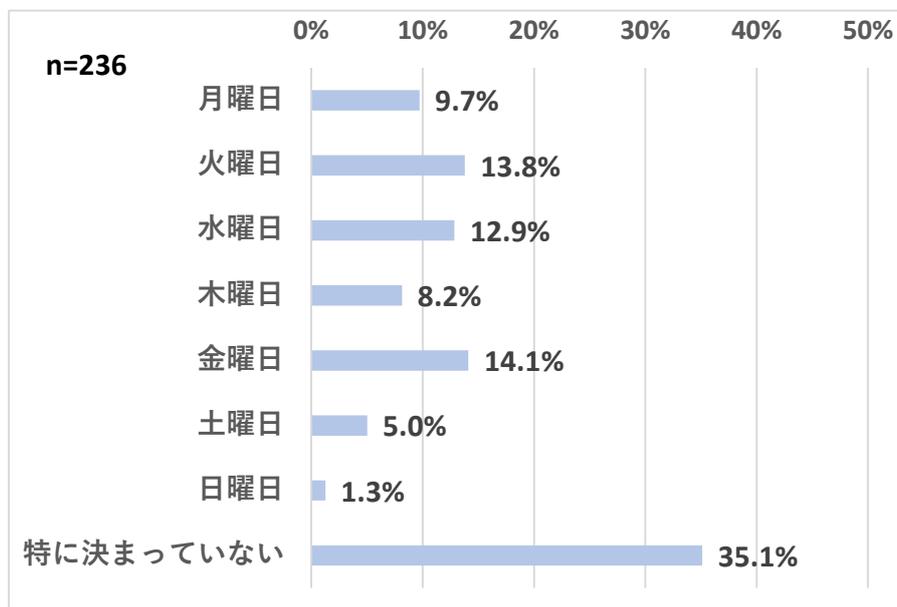


図 1-28 病院に行く曜日

Q3. 通院でよく利用する場所

通院の目的地については安平町内が最も多く(44.2%)、次に苫小牧市(35.3%)、千歳市(15.6%)と続いています。

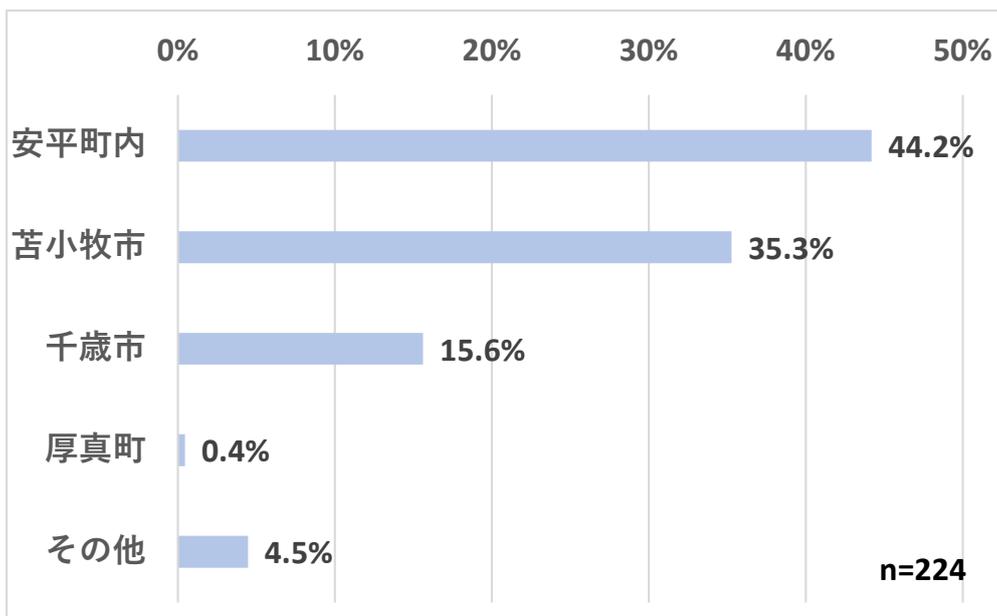


図 1-29 通院の目的地

地区別の通院でよく利用する場所は、苫小牧市へ行く割合が安平地区、遠浅地区、早来地区で高くなっています。追分地区では安平町内の病院に行く割合が一番高く、千歳市が続きます。

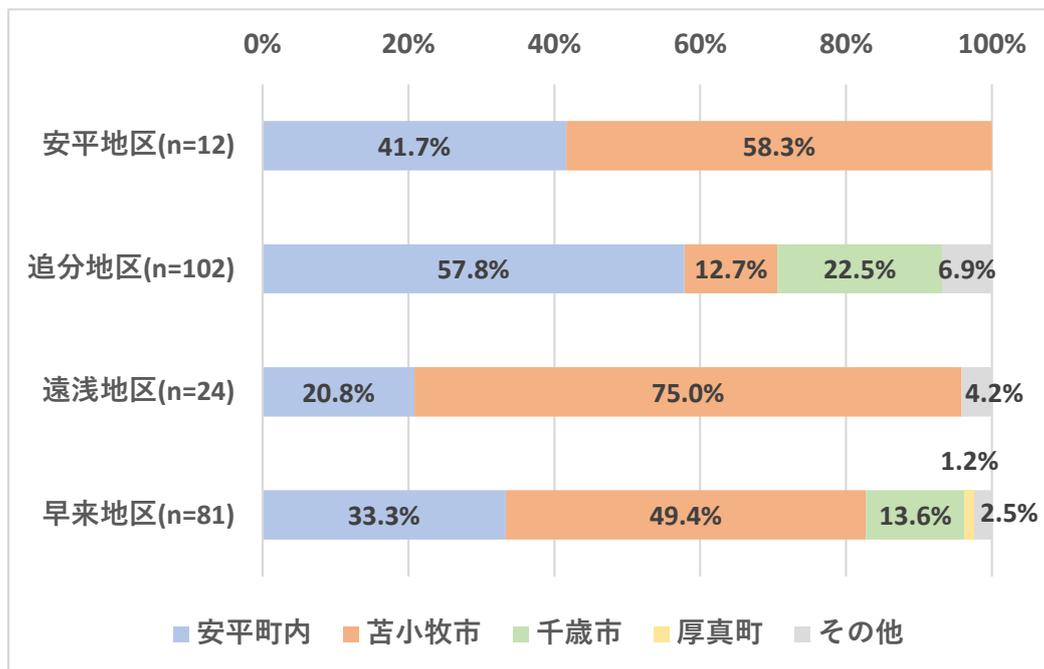


図 1-30 地区別通院でよく利用する場所

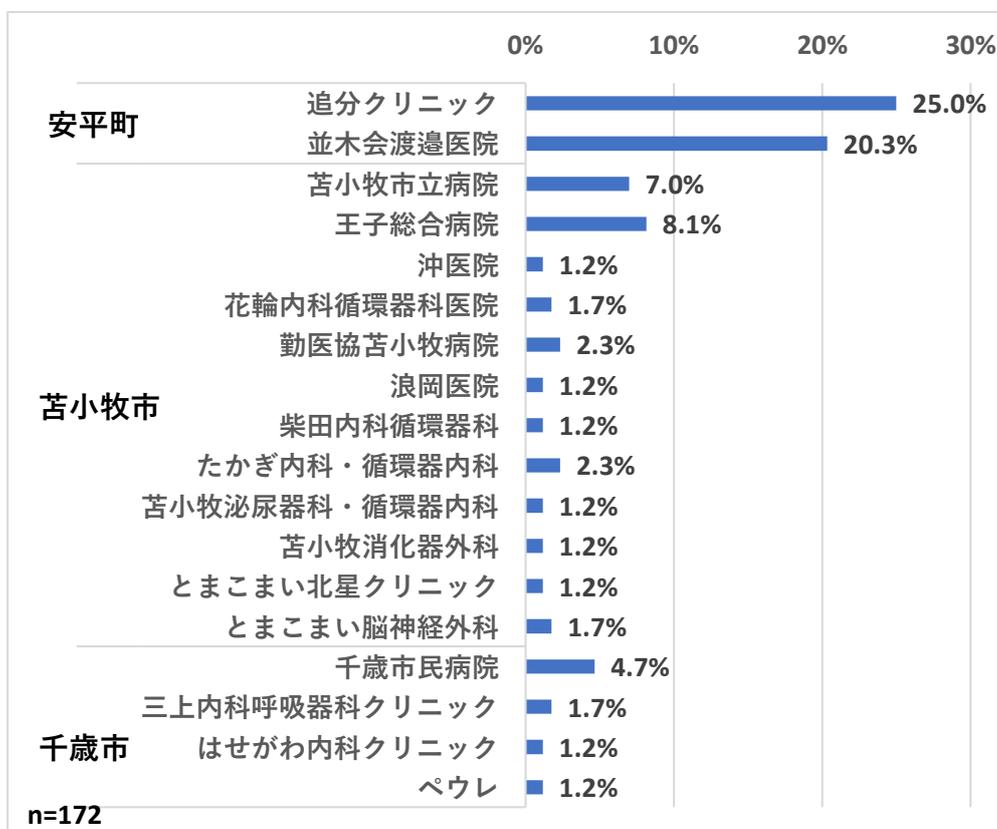


図 1-31 通院の具体的な目的地

Q 4. 病院に到着する時間帯と病院での滞在時間

病院では1時間未満の滞在が多くを占め(22.3%)、次に1時間半～2時間未満(21.0%)が続きました。

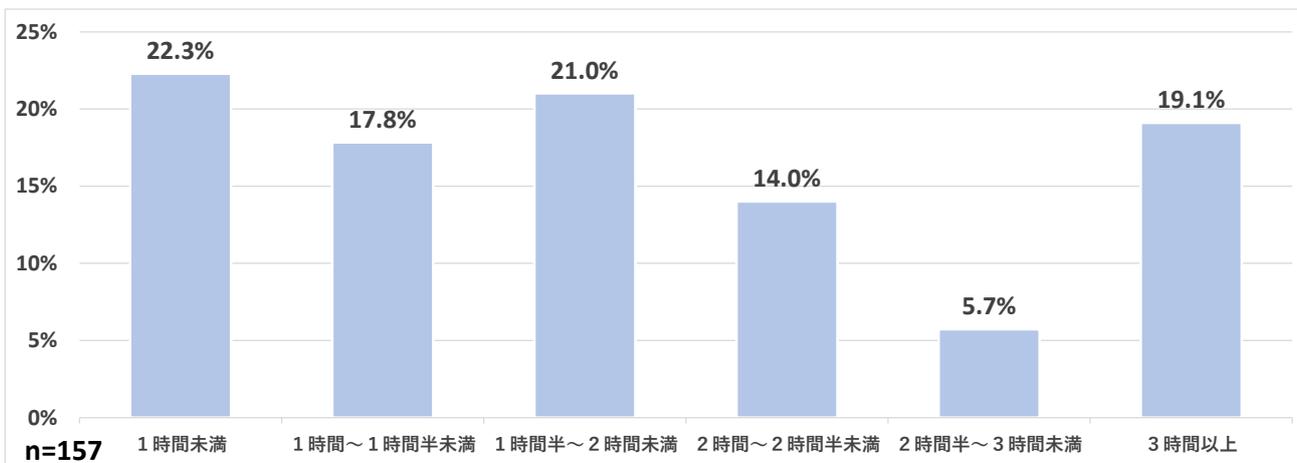


図 1-32 病院の滞在時間

病院に到着する時間は9時台 (26.8%)、10時台 (25.6%)が多く、病院には午前中に到着している人が多くなっています。

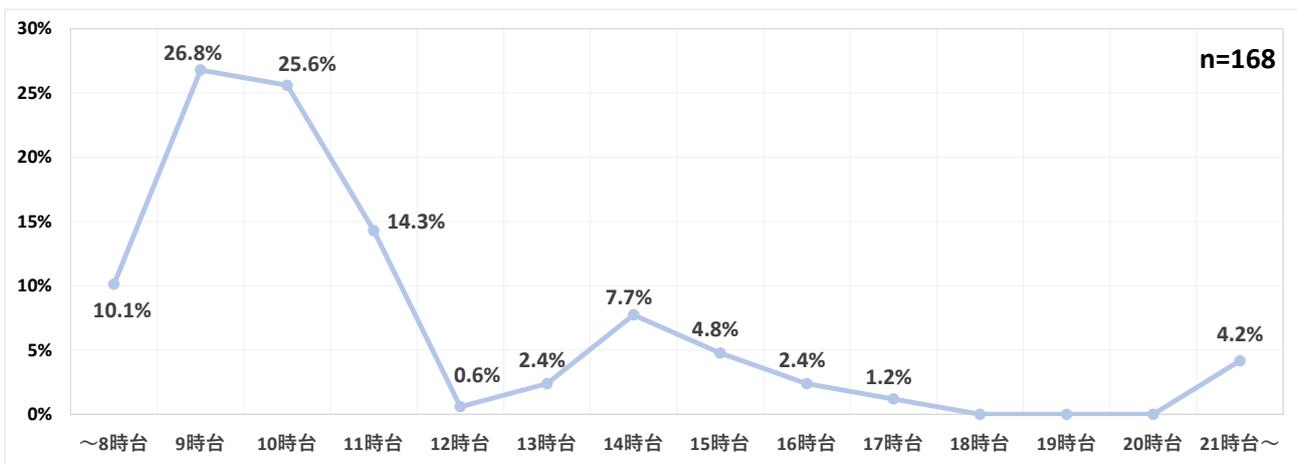


図 1-33 病院に到着する時間

Q 5. 通院時の主な交通手段

通院の交通手段については自分の自動車が大多数を占め(43.5%)、次に徒歩・自転車と家族や知人の送迎・同乗が12%前後と続いています。

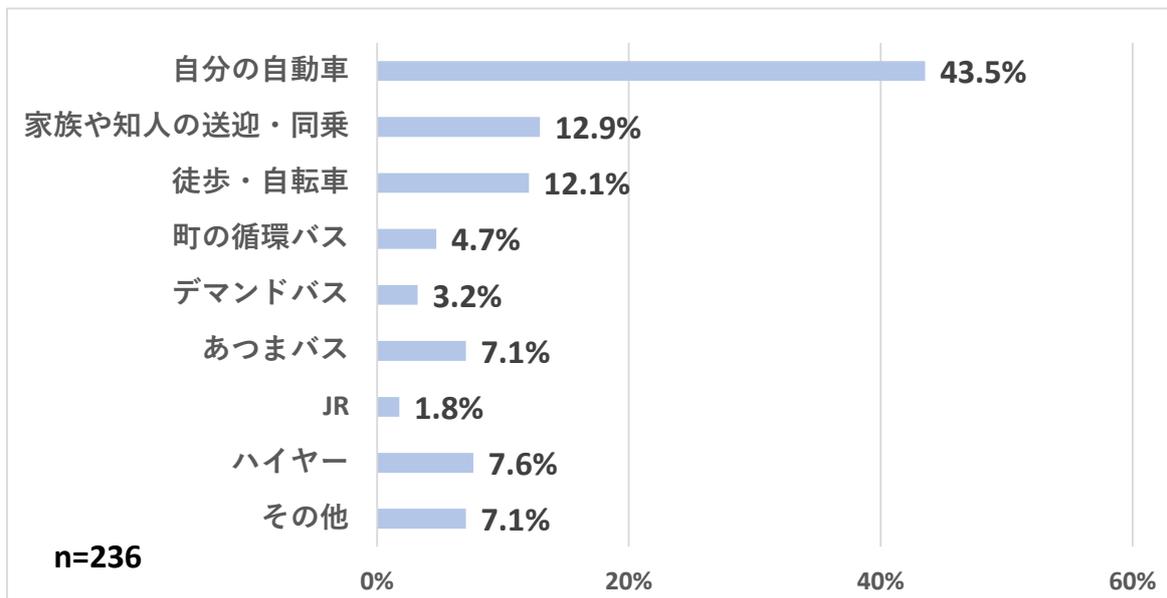


図 1-34 通院時の交通手段

年齢別の病院への移動手段では、どの世代でも自家用車が一番多い割合となりましたが、65歳以上は自家用車の割合が5割を切り、家族や知人の送迎や徒歩・自転車をはじめ他の移動手段が増加しています。

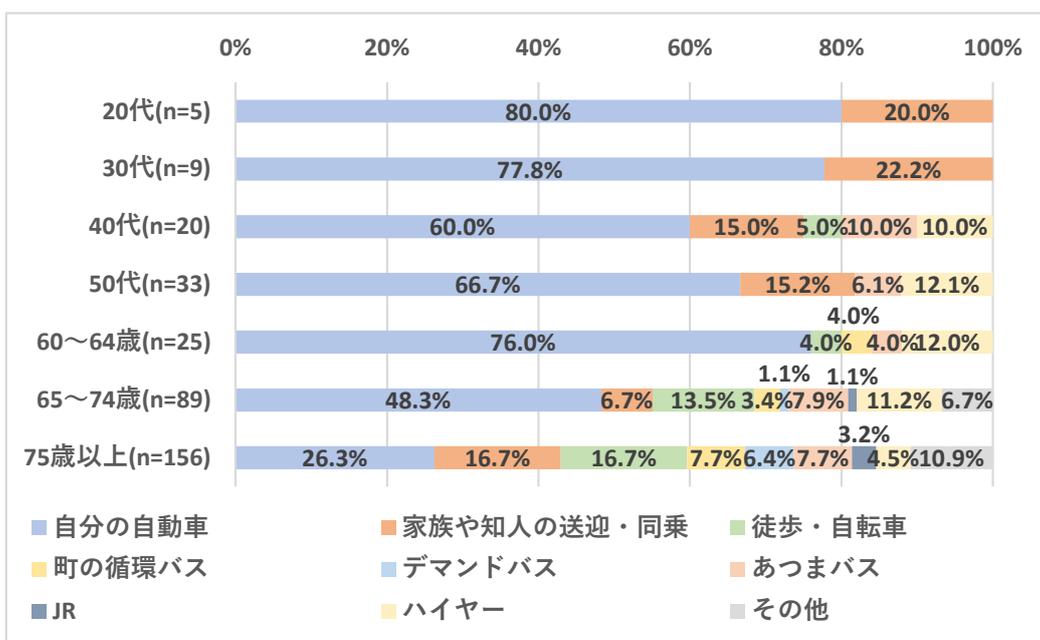


図 1-35 年齢別病院への移動手段

問3-3. 私用交通（サークル活動、教室・習い事など）について

Q1. 私用（サークル活動、教室・習い事など）で外出する頻度

私用に行く回数はめったに行かないが最も多く半数以上を占め（62.1%）、月に数回（16.8%）が続いています。

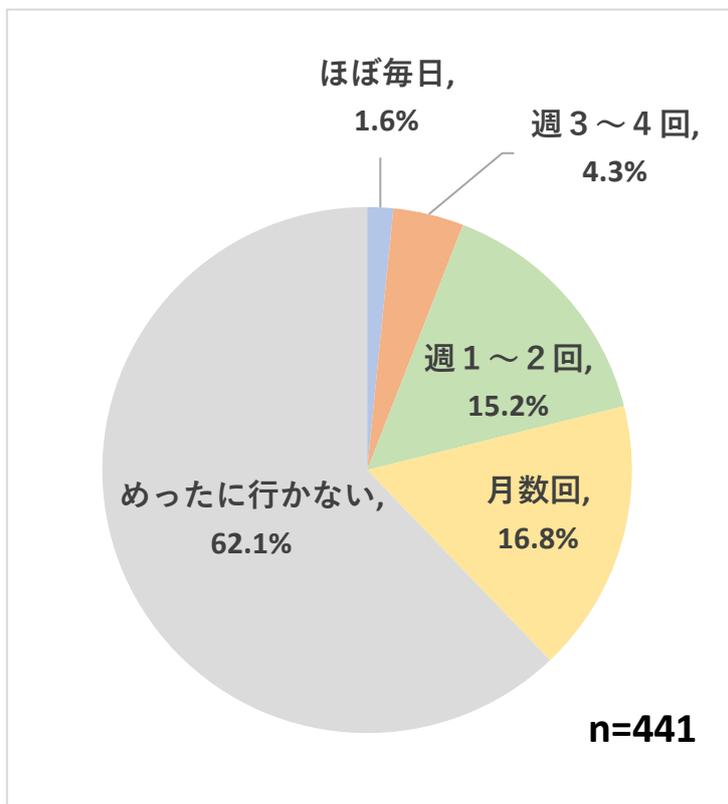


図 1-36 私用に行く頻度

Q4. 私用移動の主な交通手段

私用の交通手段については自分の自動車が大多数を占め(61.4%)、次に徒歩・自転車(15.2%)、家族や知人の送迎・同乗(8.1%)が続いています。

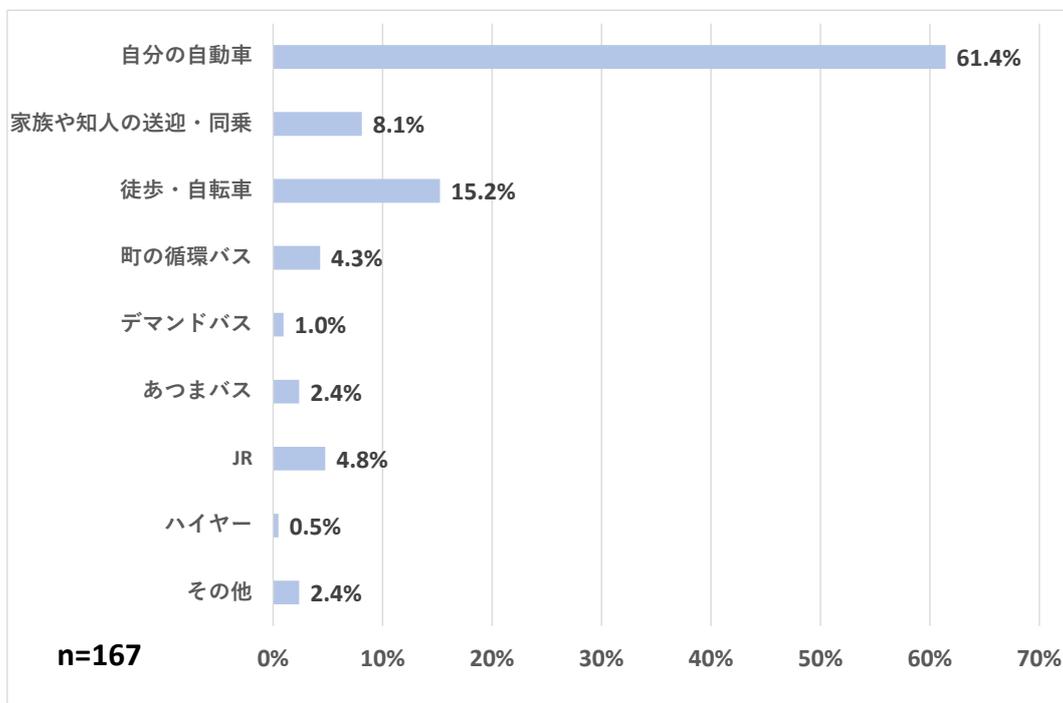


図 1-37 私用の交通手段

問4. 公共交通の利用状況や認知度について、お答えください。

Q1. 公共交通の移動手段別の利用頻度をお答えください。(それぞれ1つだけ○印)

公共交通の利用頻度としてはすべての交通機関でめったに使わない・利用したことがないと答えた割合が8割を超えています。また、月数回も合わせるとすべての交通機関で回答者の9割以上がほとんど利用していません。

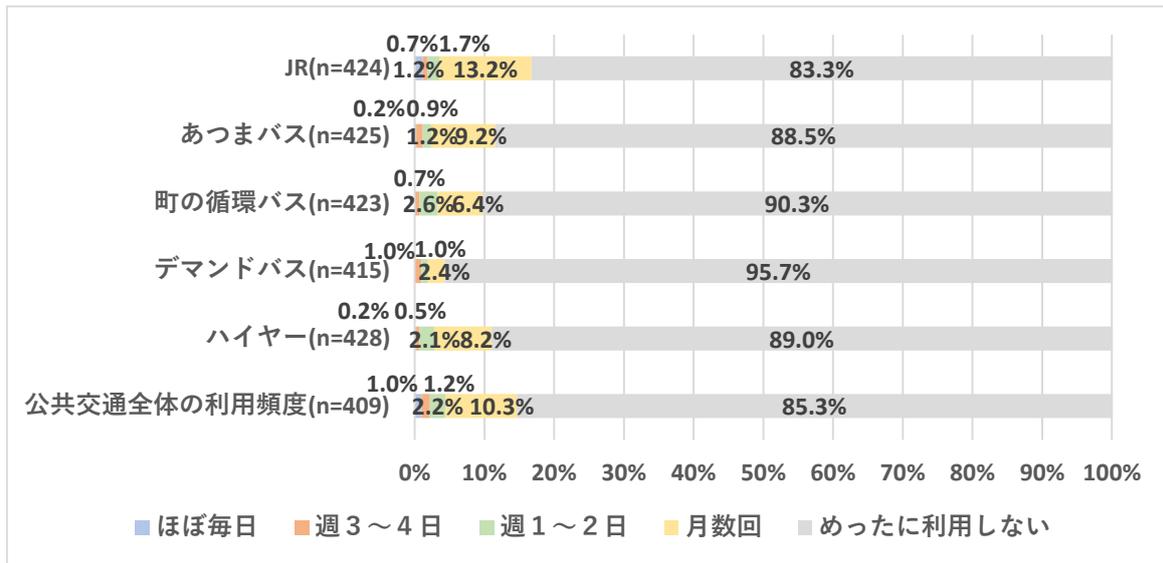


図 1-38 公共交通の利用頻度

年齢別の公共交通の利用頻度を見ると JR 以外の交通機関では年齢を経るごとに利用回数が増加しています。特に、デマンドバスは75歳以上の人が限定的に利用しています。また、JR は逆に年齢が若いほど利用回数が多くなります。

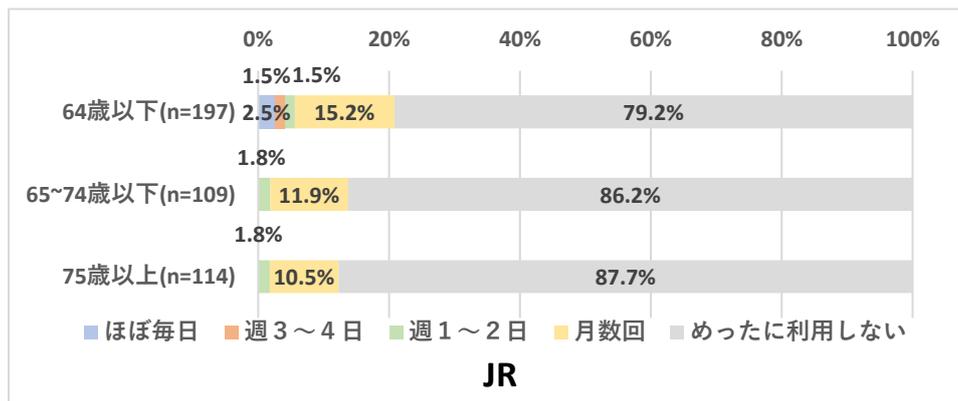


図 1-39 年齢別公共交通の利用頻度 (その1)

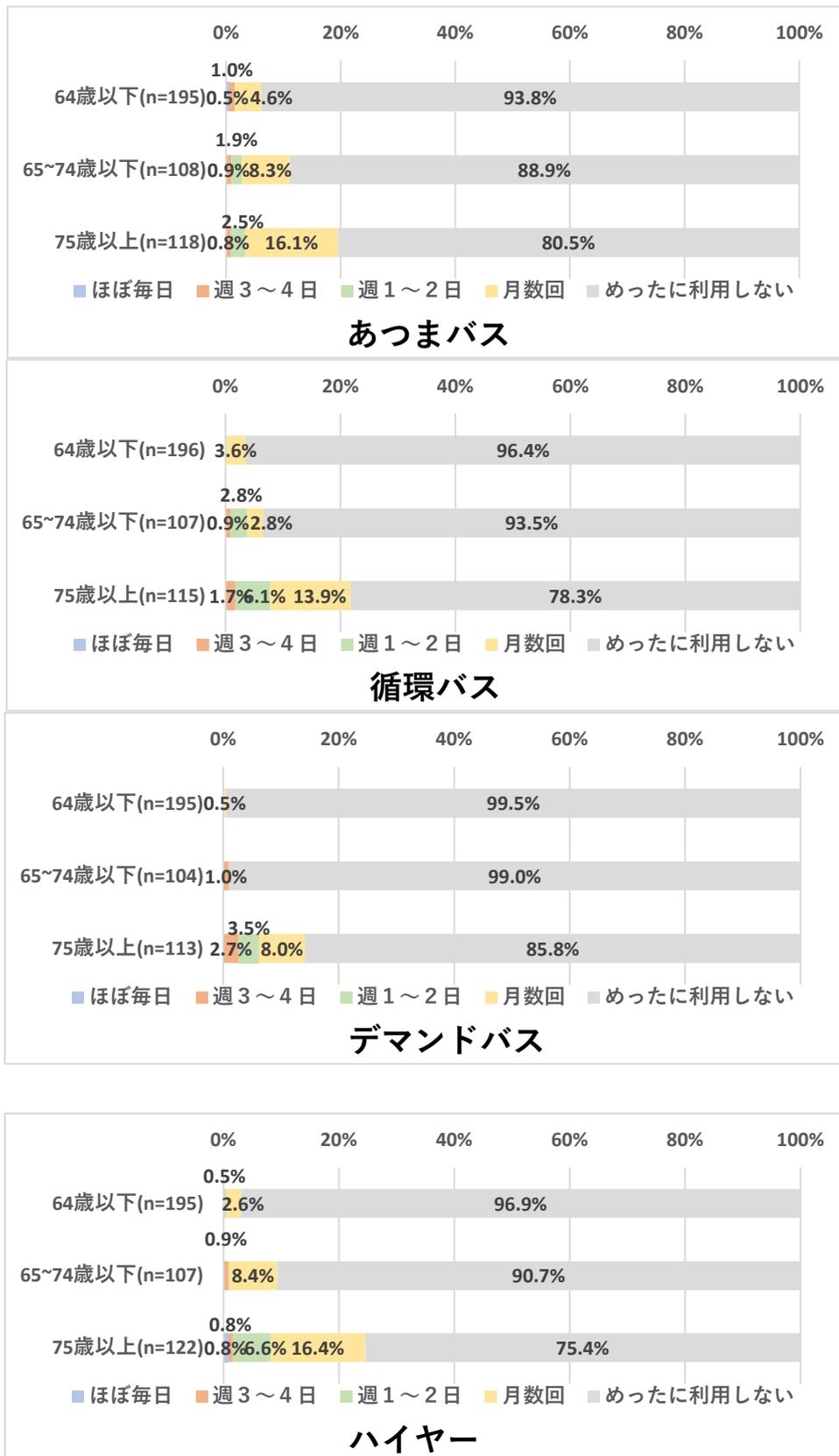


図 1-40 年齢別公共交通の利用頻度 (その2)

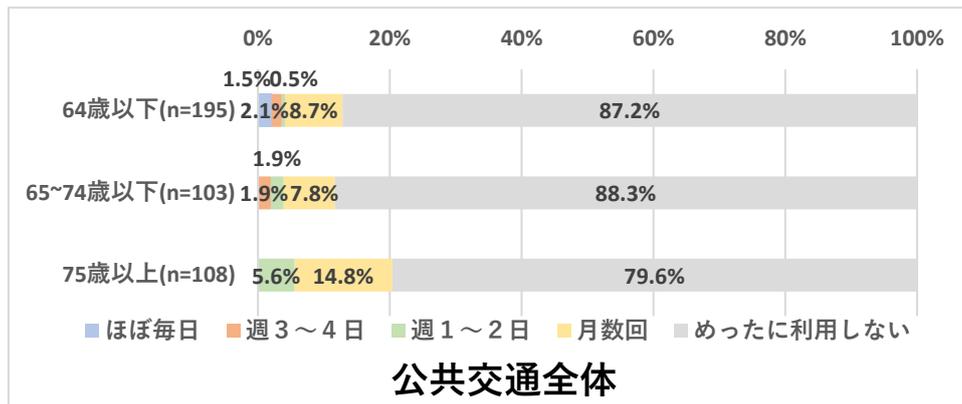


図 1-41 年齢別公共交通の利用頻度 (その3)

Q2. 公共交通の移動手段別の認知度

公共交通の認知度としてはどれも4割以上が知っていると答えましたが、知らない、あまり知らないと答えた割合も全体を通して3割を超えています。また、とりわけバスの認知度が低くなっています。

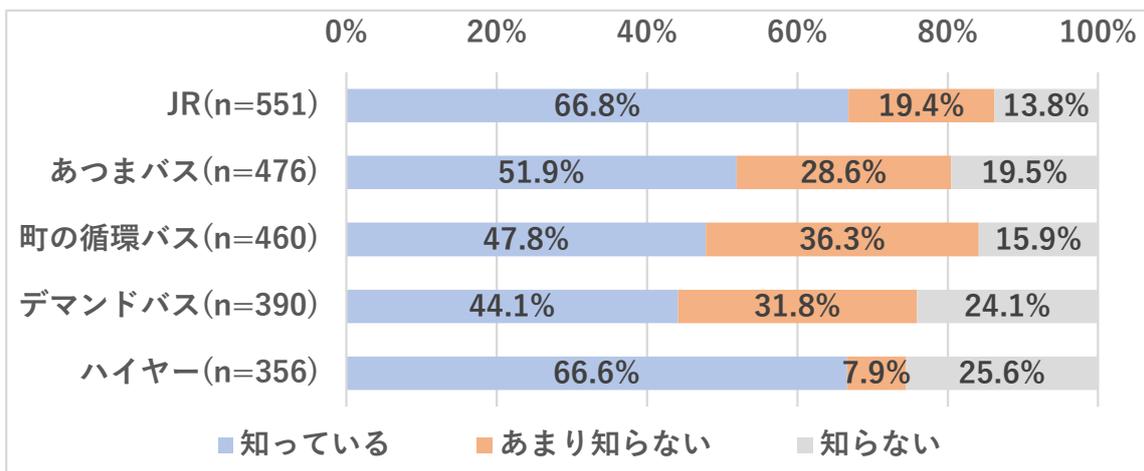


図 1-42 公共交通の認知度

年齢別の公共交通の認知度を見ると JR 以外の交通機関では年齢を経るごとに認知度が増加しています。また、JR は逆に年齢が若いほど認知度が高くなります。

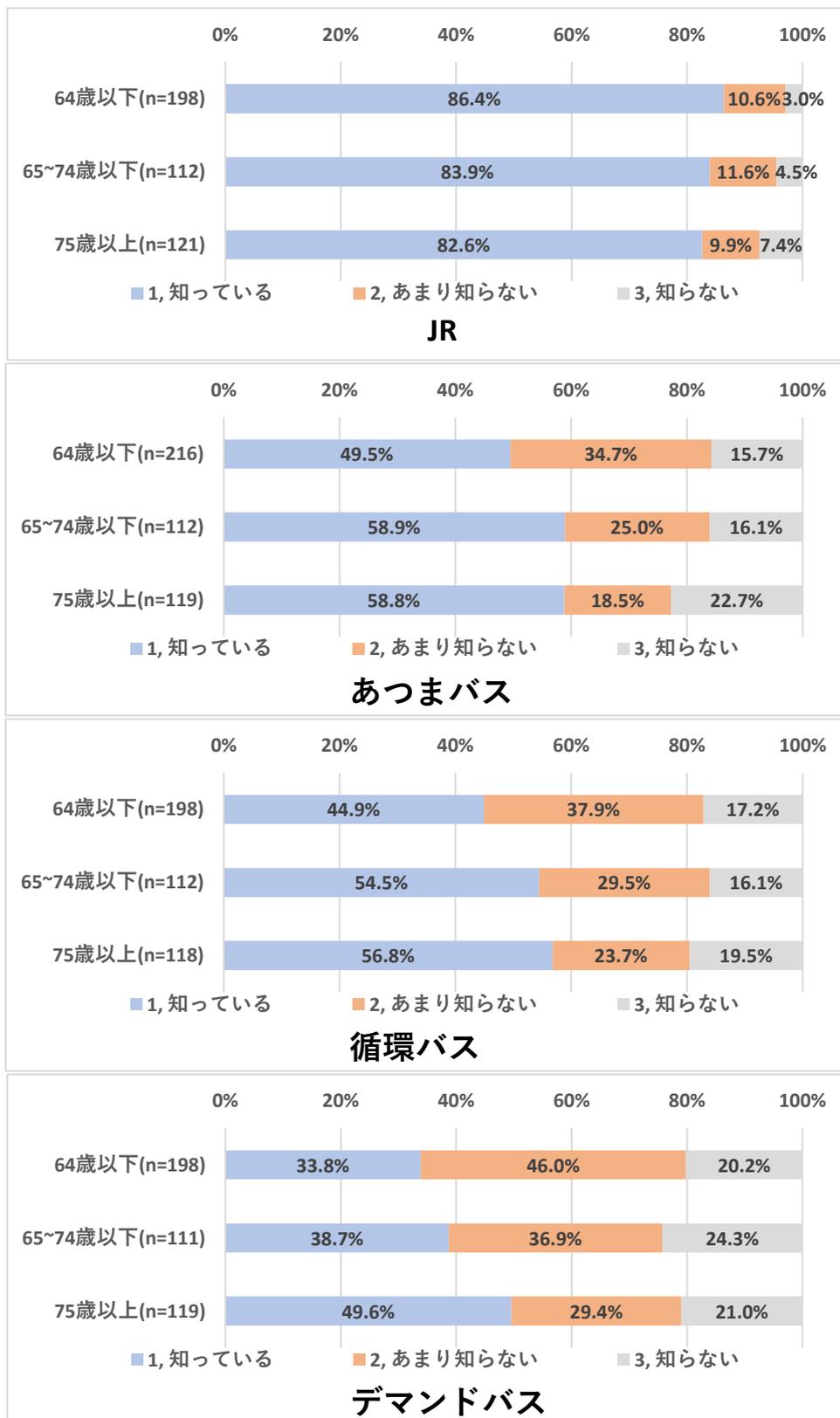


図 1-43 年齢別公共交通の認知度 (その1)

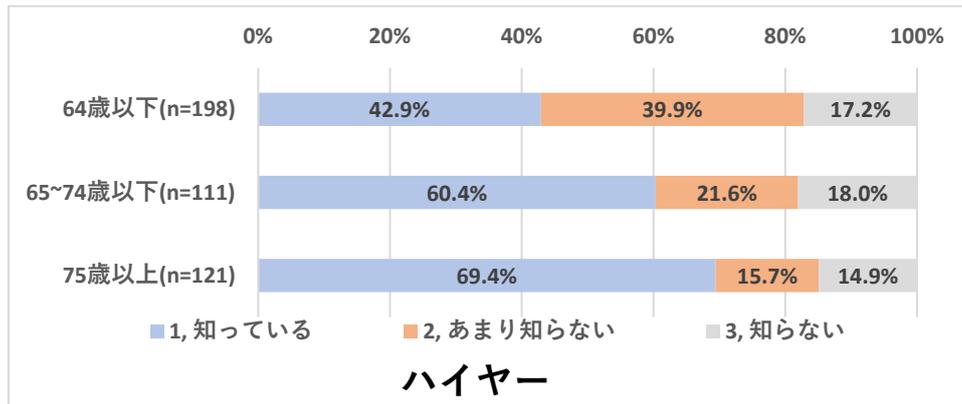


図 1-44 年齢別公共交通の認知度 (その2)

問5. 公共交通の課題や今後の取り組み

Q1. あつまバス（千歳線、苫小牧線、沼ノ端線、早来線）の満足度

あつまバスについて、回答者の半数以上が全項目で分からないと答えています。また、普通と答えている割合も多くみられ、知ってもらい、使ってもらおう仕組みづくりが必要です。

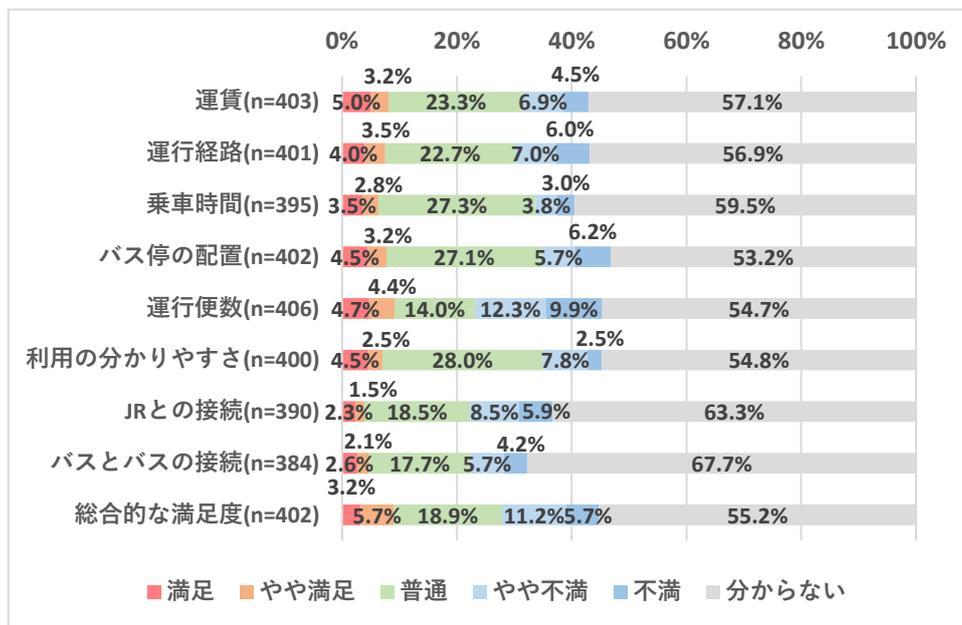


図 1-45 あつまバスの満足度

あつまバスについて、地区別の満足度を見ると、安平地区、追分地区では75%以上が分からないと答えた一方、遠浅地区、早来地区では、普通、やや不満がそれぞれ比較的多く見られました。

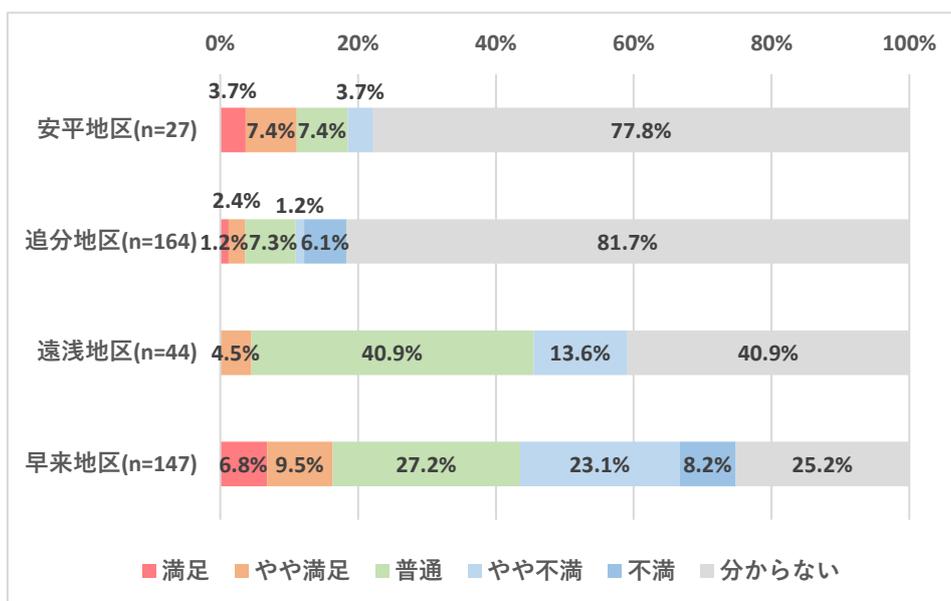


図 1-46 地区別あつまバスの総合的な満足度

Q2. 町の循環バスの満足度

まちの循環バスについて、回答者の6割以上が全項目で分からないと答えています。また、普通と答えている割合も10%以上みられ、知ってもらい、使ってもらう仕組みづくりが必要です。

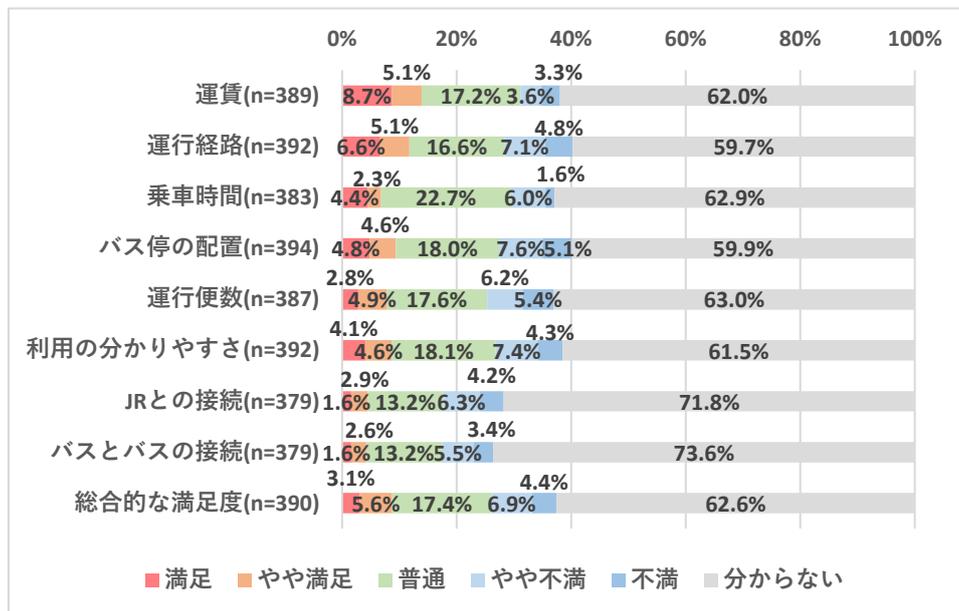


図 1-47 循環バスの満足度

循環バスについて、地区別の満足度を見ると、全ての地区で分からないが6割前後を占めました。また、早来地区では不満が比較的多くなっています。

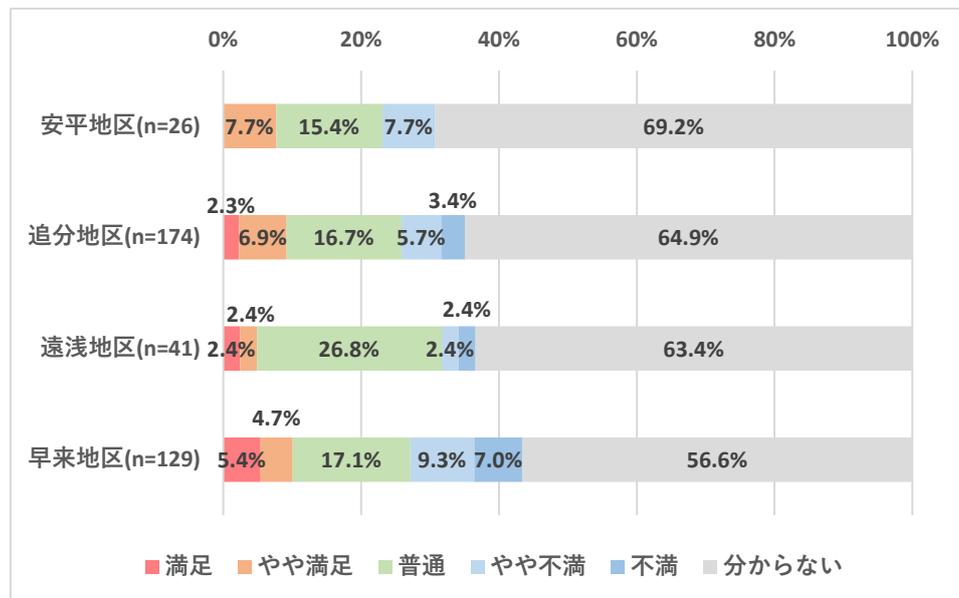


図 1-48 地区別循環バスの総合的な満足度

Q3. デマンドバスの満足度

デマンドバスについて、回答者の65%以上が全項目で分からないと答えています。また、普通と答えている割合も10%前後みられ、知ってもらい、使ってもらおう仕組みづくりが必要です。

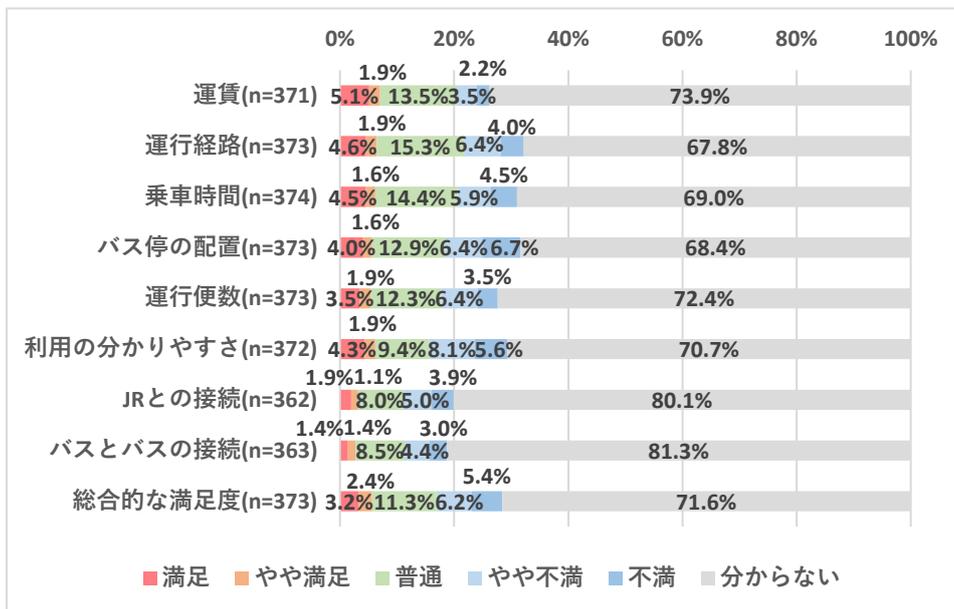


図 1-49 デマンドバスの満足度

デマンドバスについて、地区別の満足度を見ると、全ての地区で分からないが6割以上を占めました。また、どの地区でも不満が満足と同数もしくははやや多い結果となりました。

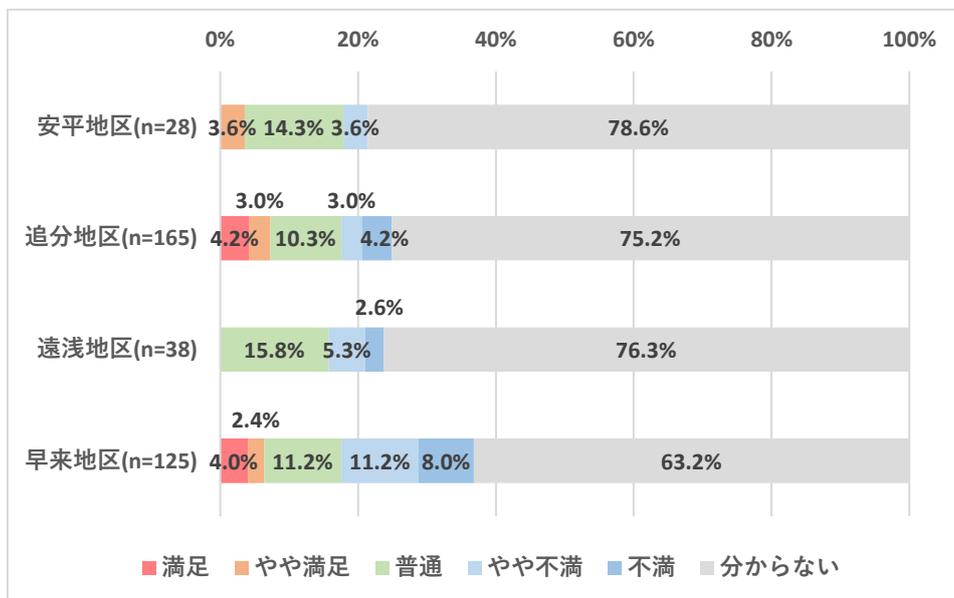


図 1-50 地区別デマンドバスの総合的な満足度

Q 4. 安平町で実施している公共交通の利便性向上や利用促進の取り組みの認知度

取り組みの認知度について、公共交通の時刻表が載っているパンフレットには 6 割程度の認知がありますが、そのほかの取り組みは 35%程度以下と、低い認知度となっています。

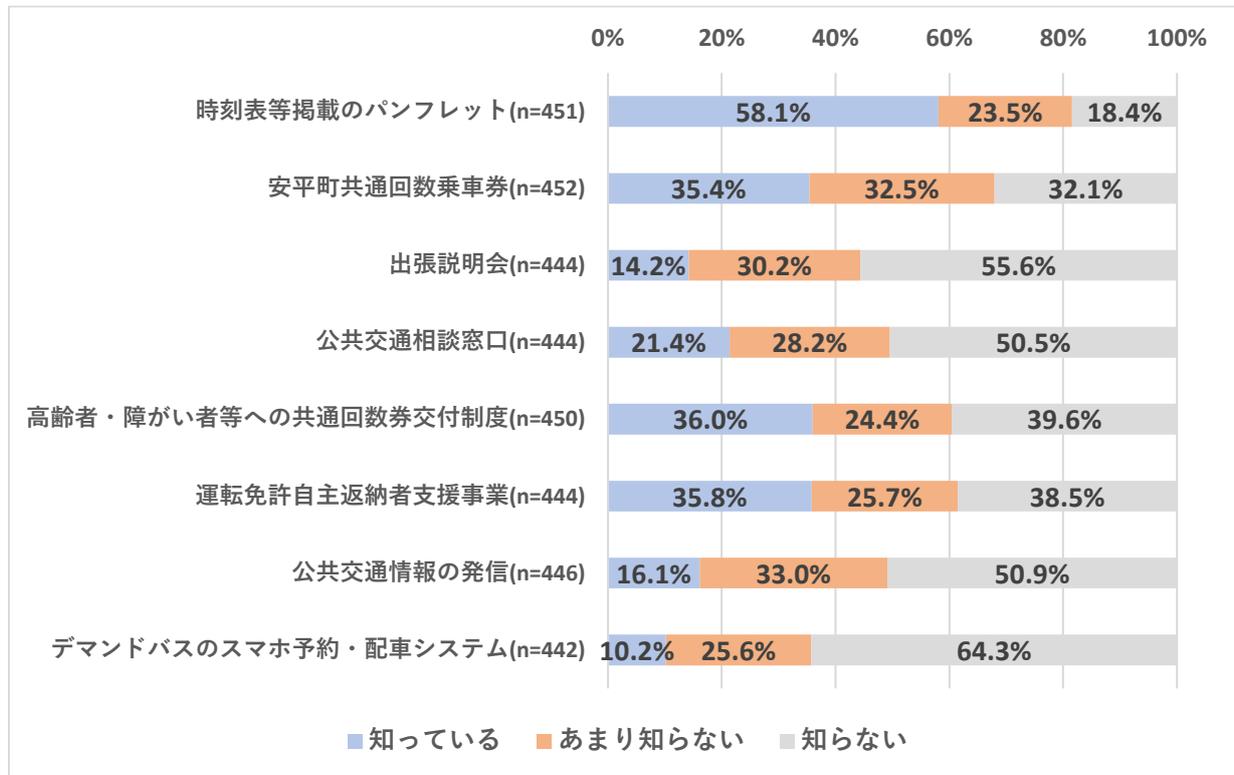


図 1-51 公共交通の取り組みの認知度

Q 5. 今後の公共交通の維持のあり方

公共交通の利用者数の低迷、運転手不足など厳しさが増す中、今後の公共交通のあり方としては、「更に利用者の助成を充実して利用者を確保する必要がある」、「事業者が利便性を高めるなど、自助努力が必要」、「自動車利用者も積極的に公共交通を利用するなど、生活スタイルを変える必要がある」が上位となっています。

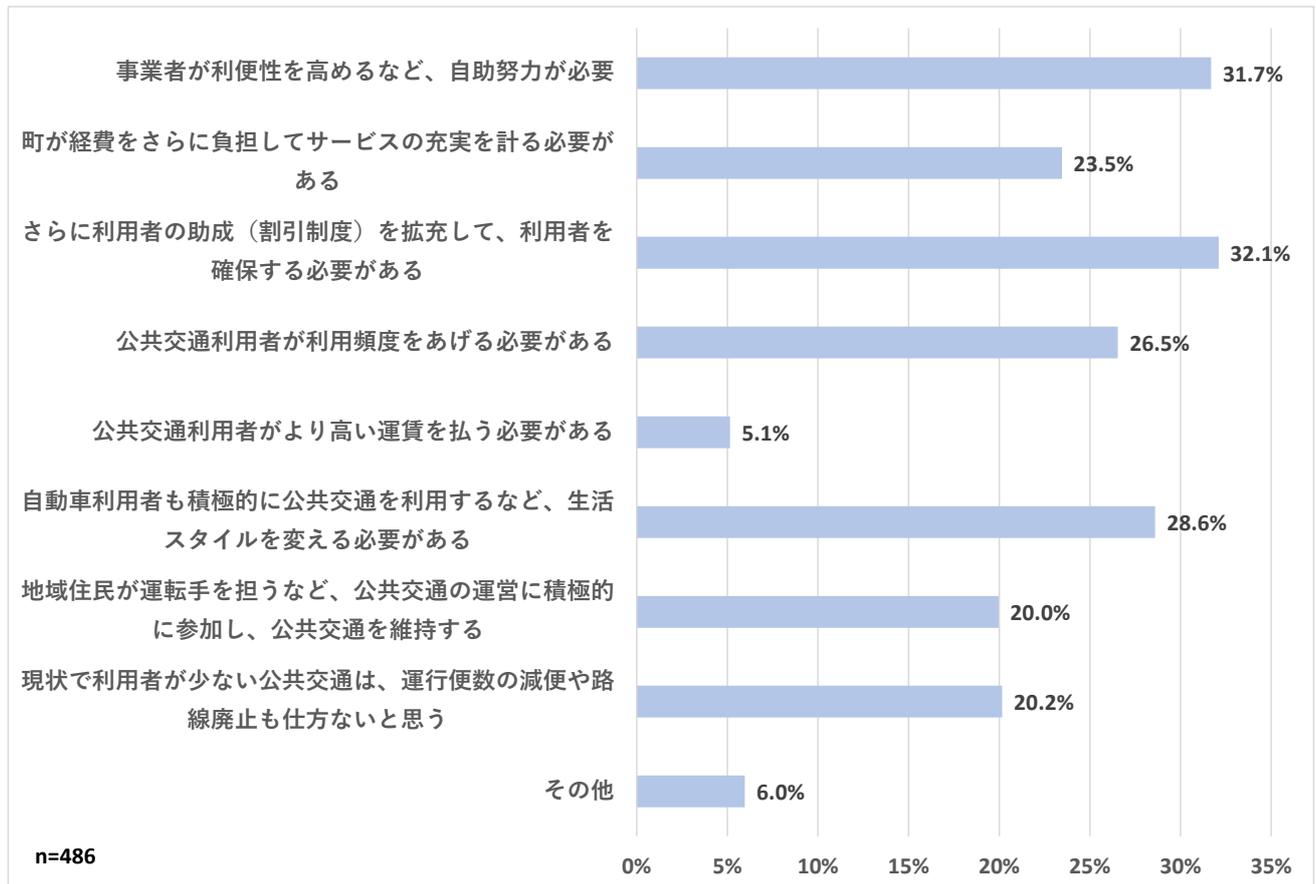


図 1-52 公共交通の維持のあり方

Q6. 今後の地域公共交通の取り組みを進めるうえで、優先度の高い施策

優先度の高い施策としては、「利用したい時間・曜日を充実し、利用の少ない時間・曜日は減便するなど、便数調整の検討」、「乗継割引や高齢者割引等の運賃負担を軽減する取組身の検討」が上位となっています。

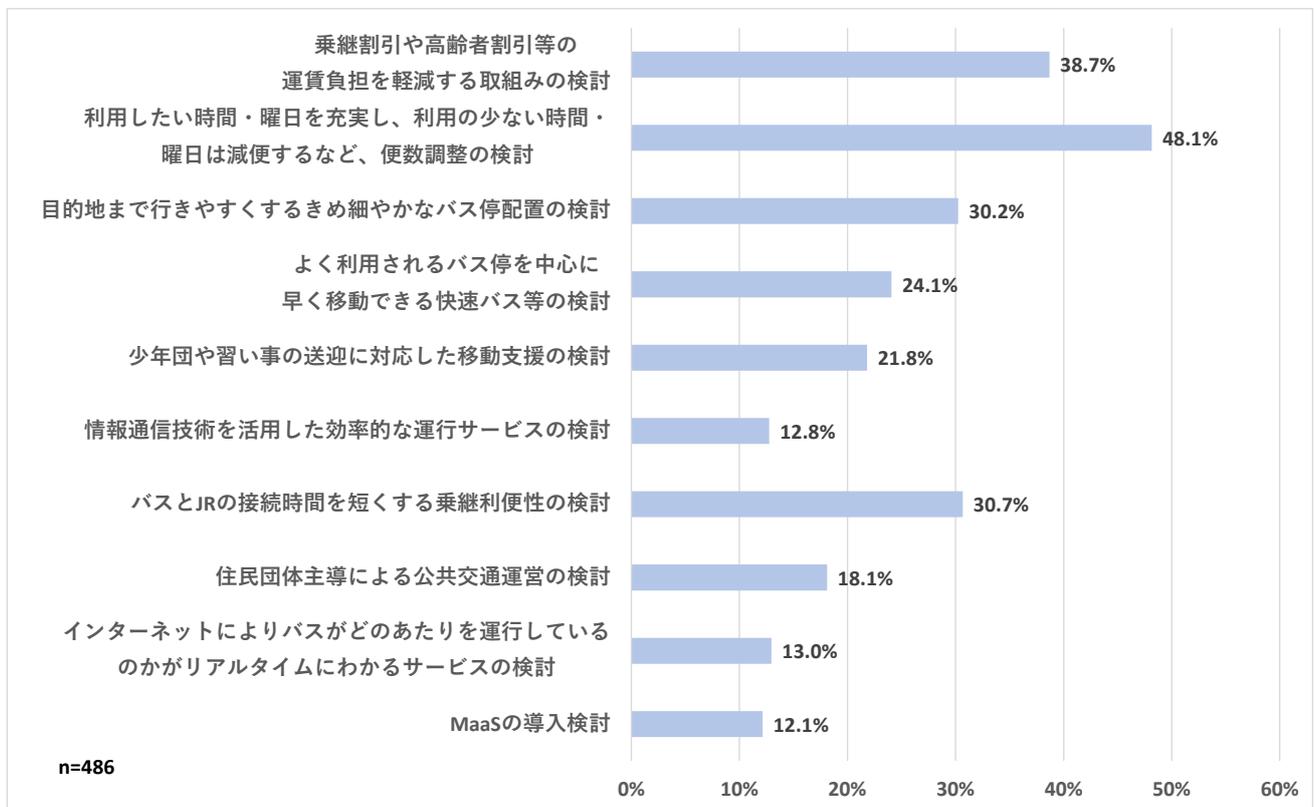


図 1-53 公共交通について優先度の高いもの

Q7. バスが無くなった場合の日常的なハイヤーの利用及びその際の利用目的

将来的なハイヤーの利用について、バスの運賃と同じくらいであれば利用するが約4割を占め、利用目的としては通院、買い物が多くを占めています。

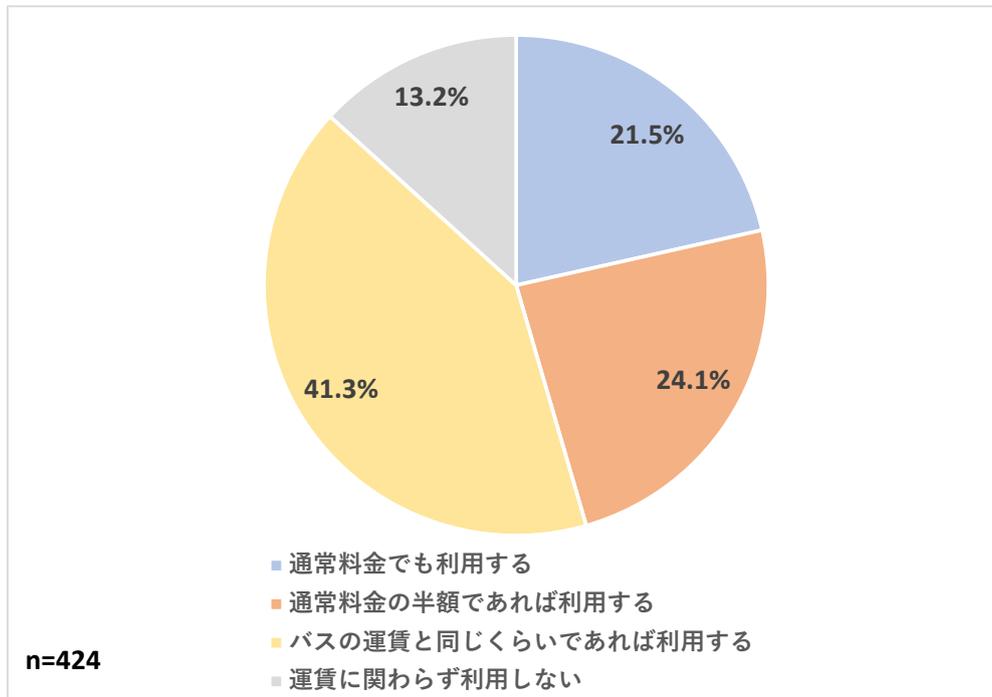


図 1-54 ハイヤーの利用可能性

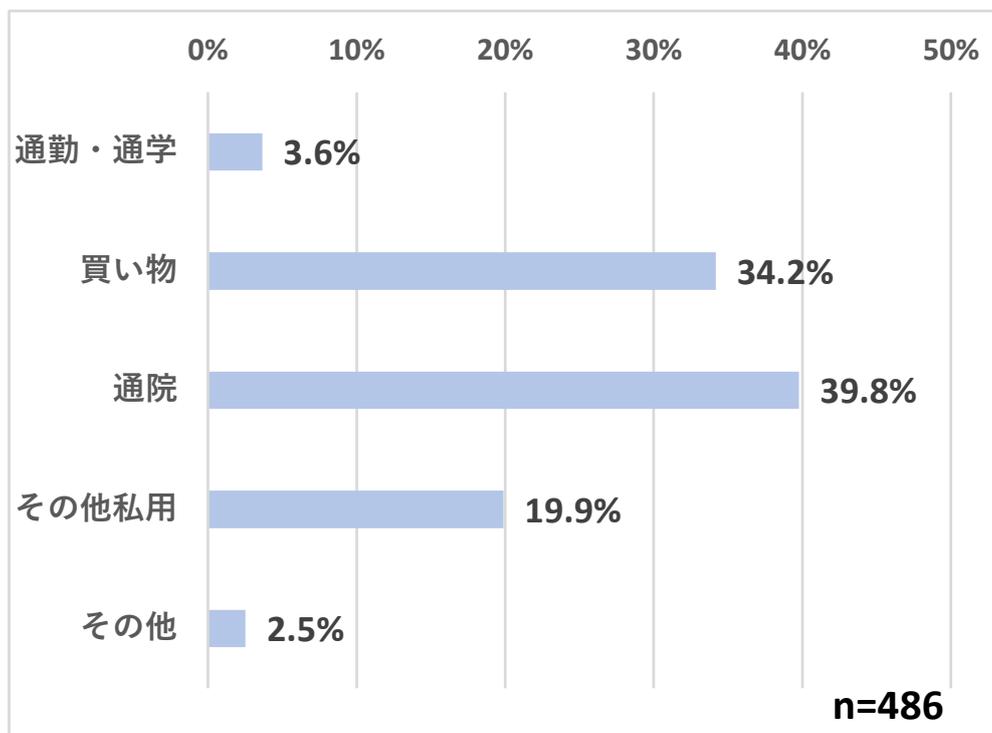


図 1-55 ハイヤーの利用目的

Q 8. 現在の公共交通の利用と新型コロナウイルス感染拡大前と比較した変化

新型コロナウイルス感染症の影響については、元々公共交通を利用していないが半数以上(56.4%)と多くを占めました。続いて利用を特に変えていないという回答が続きました(27.0%)。

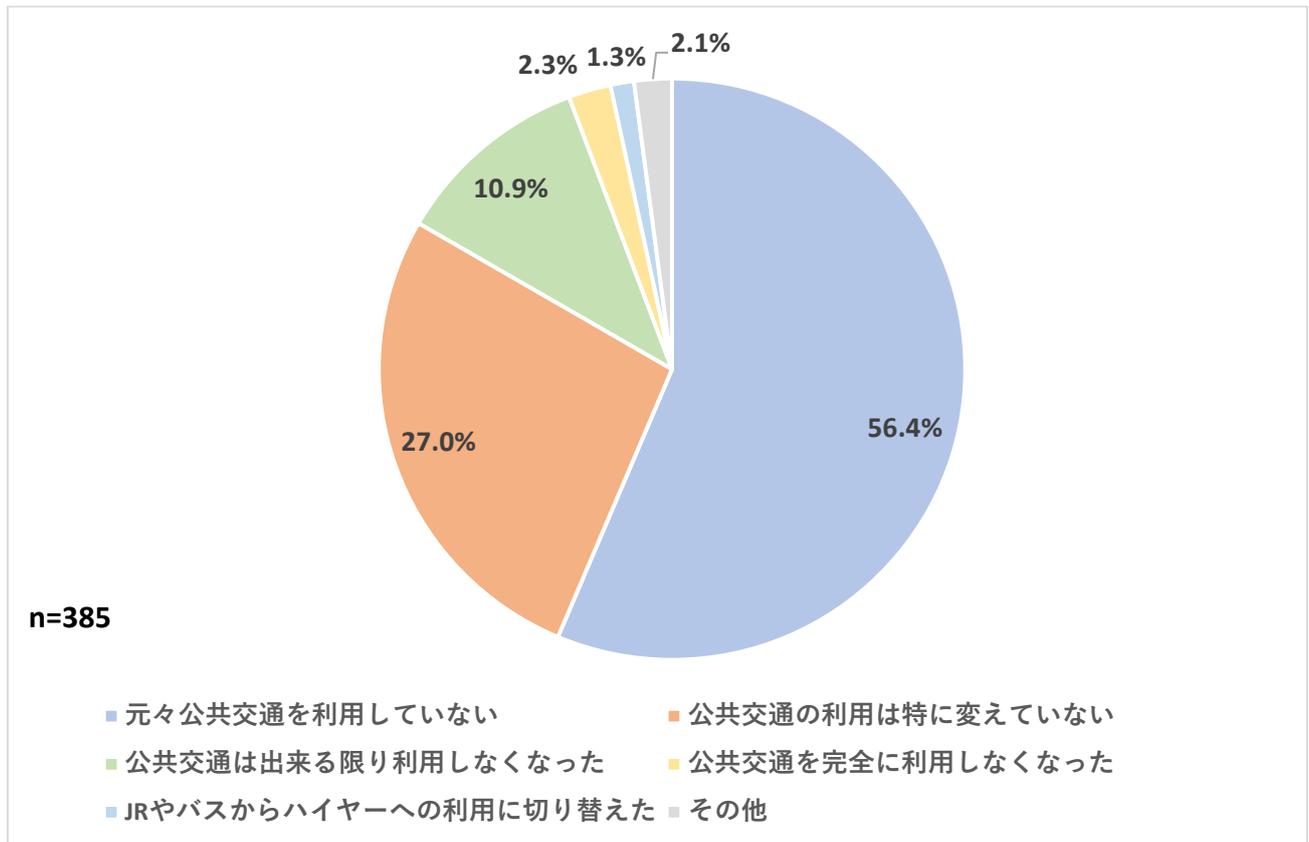


図 1-56 新型コロナウイルス感染症の影響

2 ニュースレターの発行

安平町地域公共交通計画の策定に当たって、計画の進捗状況に合わせて住民の皆様に対して、ニュースレターを3回発行しました。発行したニュースレターは以下の通りです。

(1) 第1号

【編集・発行】安平町政策推進課政策推進グループ



あびら地域公共交通だより

～ 地域公共交通計画の策定作業を行っています ～

令和3年8月20日発行

第1号

■ はじめに

平成29年5月に安平町地域公共交通網形成計画を策定し、町内4地区を結ぶ「循環バス」の運行や町内を運行する公共交通全てで使用可能な「共通回数乗車券」の導入、路線図や乗り方ガイド等を併載した「総合時刻表」の毎年発行など、地域公共交通の改善と利用促進を図って参りました。一方、①震災、②ハイヤー事業者や医院、商店の廃業、③新型コロナウイルス感染症による生活スタイルなどに大きな変化が生じており、改めて持続可能な地域公共交通ネットワークの更なる検討が必要となっています。

こうした背景を踏まえて第2期計画にあたる安平町地域公共交通計画（R4～R8）を今年度に検討・策定することとなりました。策定に当たっては町民の皆さんから広くご意見をうかがいたく、各種調査にご協力をお願いいたします。

■ 安平町地域公共交通計画策定に向けた作業内容

1

地域及び公共交通の現状整理（7月実施済み）

- ⇒ 施設の立地状況、人口配置、公共交通の運行状況を整理
- ⇒ 鉄道、路線バスの利用状況を把握するため、利用実態調査を実施

鉄道・路線バスに乗り込んで調査を7月6日に実施しました（ご協力ありがとうございました）
調査結果の速報は次ページをご確認ください

2

住民アンケート調査（9月実施 広報あびら9月号に併せて配布予定）

- ⇒ 世帯を対象にアンケート調査を実施し、移動実態や公共交通に対する思い、今後の取組の希望などについてお聞きします

ご協力をお願い 計画策定の参考として、多くのご意見をお待ちしております

Pick up!

3

住民意見交換会（9月実施 **ご参加をお待ちしております**）

- ⇒ 今後の安平町の公共交通をより良いものにするため、住民の皆さんと一緒に考える場です。より多くの方々のご参加・ご意見をお待ちしております。

ご協力をお願い

意見交換会は次の日程で開催します。都合のよい時間（所要時間：60分～90分を予定）と場所を自由にお選びいただきご参加ください。（事前申込不要）
・・・新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、マスク着用にご協力をお願いします。・・・

開催日時	9月8日（水） 11：00～	9月9日（木） 10：30～	9月9日（木） 19：00～	9月13日（月） 10：30～	9月17日（金） 19：00～
会場 （所在地）	安平公民館 （安平165）	しののめ交流館 （早来大町103）	役場総合庁舎 （早来大町95）	ぬくもりセンター （追分中央40）	遠浅公民館 （遠浅125）

【問い合わせ先】安平町役場 政策推進課政策推進グループ 担当：高橋・郡 ☎0145-22-2751

4

安平町地域公共交通計画の策定

- ⇒ 上記1～3を踏まえ、安平町にとってふさわしい地域公共交通のあり方を検討します。

ご協力をお願い

地域公共交通計画の素案策定後にパブリックコメント（素案に対する意見公募）を実施する予定です。計画素案及び意見公募要領は広報紙でお知らせします。

■ 路線バス及びＪＲ駅の利用実態調査【速報版】

実施日	令和3年7月6日（火）
対象のバス路線	町循環バス、あつまバス千歳線・早来線・苫小牧線・沼ノ端線
対象のＪＲ駅	追分駅・安平駅・早来駅・遠浅駅

（その他デマンドバス等については今後利用実態を整理していきます）

バス利用者数
203人/日
(H28年:242人/日)



【考察】平成28年比の全体で約16%減少。平成28年以降に沼ノ端線が新設されたことにより、利用者の比率が変化。（厚真高校生徒の通学利用が早来線から新設された沼ノ端線に移行）

町循環バス 31人/日
(H28年:31人/日)

あつまバス 26人/日
千歳線・早来線
(H28年:117人/日)

あつまバス 146人/日
苫小牧線・沼ノ端線
(H28年:94人/日)

ＪＲ利用者数
499人/日
(平成28年:827人/日)



【考察】平成28年比の全体で約40%減少

ＪＲ追分駅 306人/日
(平成28年:459人)

ＪＲ安平駅 15人/日
(平成28年:31人)

ＪＲ早来駅 132人/日
(平成28年:276人)

ＪＲ遠浅駅 46人/日
(平成28年:61人)



バス利用者の職業



ＪＲ利用者の職業



(2) 第2号



【編集・発行】安平町政策推進課政策推進グループ

あびら地域公共交通だより

～ 地域公共交通計画の策定のための調査を実施しました～

令和3年12月6日発行

第2号

はじめに

安平町では、地域住民にとってより使いやすく持続可能な公共交通となるよう、第2期計画にあたる安平町地域公共交通計画（R4～R8）の検討・策定作業を行っています。

今号では、公共交通の実態や課題を把握するために実施した、9月の住民アンケート、10月の住民意見交換会（全5回）の結果速報版がまとまりましたので、その概要をお知らせします。今後、7月の乗降者調査も含めた調査結果を参考に計画策定に向けて検討を進めます。

アンケート調査の結果概要

配布日：令和3年9月4日 配布数：3,544票 回収数（回収率）：486票（13.7%）

回答者の過半数が高齢者です。公共交通の取り組みのうち、第1期計画に基づき導入した「時刻表等を掲載したパンフレット」の認知度が特に高くなっています。

公共交通の取り組みの認知度

取り組み	知っている	あまり知らない	知らない	無回答
時刻表等を掲載したパンフレット	53.9%	21.8%	17.1%	7.2%
安平町共通回数乗車券	32.9%	30.3%	29.8%	7.0%
公共交通相談窓口	19.6%	25.7%	46.1%	8.6%
高齢者・障がい者等への共通回数券交付制度	33.3%	22.6%	36.6%	7.5%
運転免許自主返納者支援事業	32.7%	23.5%	35.2%	8.6%
デマンドバスのスマホ予約・配車システム	9.3%	23.3%	58.4%	9.0%

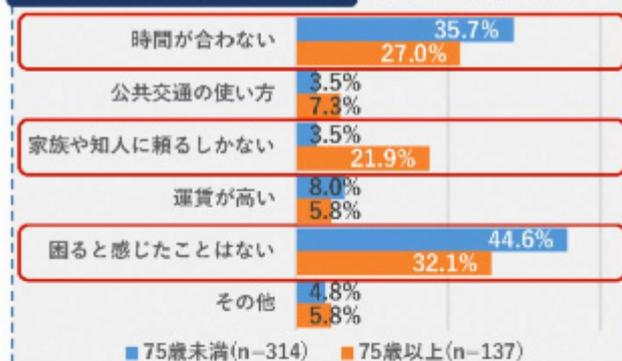
n=486 ■ 知っている ■ あまり知らない ■ 知らない ■ 無回答

安平町の公共交通の課題やニーズを幅広く把握することを目的に、15歳以上の町民を対象としたアンケート調査を実施しました。

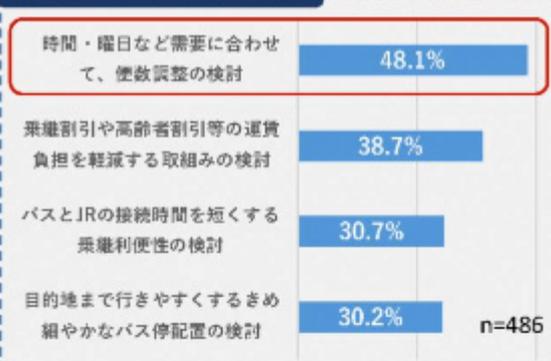
回答者の年齢

10代 : 0.2%
 20～59歳 : 33.4%
 60～64歳 : 8.1%
65～74歳 : 25.5%
75歳以上 : 32.8%
 (n=479)

外出の際に移動で困っている事



優先すべき施策（上位4つ）



通院・買い物先に到着する時間



外出の際、公共交通の時間が合わない、家族等に頼るしかない（特に高齢者）が困っています。通院・買い物の時間帯は10時台を中心に午前中の移動が多く、実態に合わせた公共交通サービスの検討が必要です。

■ 地域別の意見交換会を実施しました

実施概要

目的 地域住民の皆様のご公共交通の利用状況や地域公共交通の現状について知ってもらう機会の提供、公共交通の利用に際しての課題を把握し、解決方策を検討するための情報収集を目的として意見交換会を実施しました。

参加者 地域公共交通に興味・関心のある地域住民の方

開催地 安平地区、追分地区、早来地区、遠浅地区の各地区（全5回）

実施期間 令和3年10月6日（水）～10月22日（金）

参加人数 延べ43名



意見交換結果の概要

町外に出る際はJRやあつまバス、町内移動では循環バスやデマンドバスを利用している等、現状上手く活用しているという声があるなか、まだまだデマンドバスをはじめとする公共交通について知られていない状況や荷物の混載、曜日を分けての運行などの新しいニーズを把握することができました。

JRについて

- ・ 苫小牧や千歳など町外に移動するときに使う。
- ・ ホームの階段の上り下りが大変。
- ・ あつまバスなど、他の公共交通と接続時間が分からない。

あつまバスについて

- ・ 町外に行く場合、早来駅まで遠いのでバス停が近いあつまバスを使う。
- ・ 沼ノ端に通院するときはあつまバスを使う。

循環バスについて

- ・ そもそもどこをいつ走っているか、知らない。
- ・ 早来市街地の停留所から商店までが遠く、使いづらい。
- ・ 特定の曜日に分けてもいいので運行間隔を短くしてほしい。
- ・ 人以外に物（例：道の駅への納品物）も運べるとよい。
- ・ フリー乗降（手上げで乗り降りできる）区間を拡充してほしい。

デマンドバスについて

- ・ 予約制だと予定を変更しづらい。
- ・ スマートフォンでの予約は高齢者には難しい。
- ・ 土日にもパークゴルフ等のために運行してほしい。
- ・ コロナ対策としてできれば相乗りは避けたい。
- ・ デマンドバスについて、そもそもどういうものかわからない。
- ・ デマンドバスとJRとの接続が良くない。

ハイヤーについて

- ・ 便利で緊急時も使えるが、通常時や駅からの乗継には料金が高い。
- ・ 1台しか運行していないため、乗りたいときに乗ることができない。
- ・ 先に値段がわかるハイヤーだと安心して使える。
- ・ 高齢になった時の自動車事故リスクも考え、利用を検討している。
- ・ 乗り合えば安く乗れると思う。

利用促進について

- ・ 乗り方講座を開いてほしい。
- ・ 実際に使っている人から話を聞いてみたい。
- ・ 広報紙などの言葉や表現がわかりにくい。
- ・ ツアーや割引デーなどを設定してほしい。
- ・ 現在の運行状況が見えるようにしてほしい。

その他

- ・ すべてのスクールバスで一般利用できるように仕組みが欲しい。
- ・ 土日や金曜の夜の公共交通の運行を充実させてほしい。
- ・ 将来は自動運転にすべて任せてもよいと考えている。
- ・ 老人クラブ主体で試乗体験会を企画したい

(3) 第3号



【編集・発行】 政策推進課政策推進グループ

あびら地域公共交通だより

～地域公共交通計画（素案）の概要をお知らせし、
皆さんのご意見を募集します～

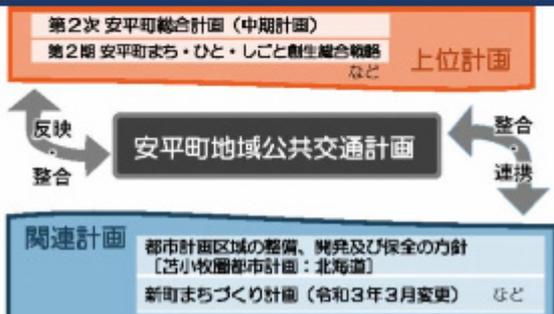
令和4年4月5日発行

第3号

■ はじめに

安平町における上位・関連計画を踏まえ、第2期計画にあたる「安平町地域公共交通計画」（計画期間：令和4年度～令和8年度）の策定作業を行っています。このたび素案に対するご意見を募集し、5～6月頃の計画策定完了を目指して進めていきます。

既存の鉄道・バス・ハイヤーなどの更なる有効機能、守るだけでなく、まちづくりとも連携した乗ること自体に価値を感じる取り組み等を通じ、持続可能で発展的な移動サービスの確保を目指し、住みよい環境づくりを目指していく考えです。



■ 現状と第1期計画（安平町地域公共交通網形成計画 H29-R3）の取り組み

現状

- ・ 少子高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響等により、利用者数が経年的に減少
- ・ 移動の不便な方への支援を改めて検討し、持続可能で発展的な地域社会の構築につなげる必要がある
- ・ 守るだけでは残らない、比較的恵まれている鉄道等の移動資源を活かす効果的な取組が急務

範囲・役割	事業者等	路線・運行区間・利用実績等	
地域内外の移動	北海道旅客鉄道	室蘭線（維持困難線区）、石勝線	毎年減少
都市間移動	あつまバス	苫小牧線、千歳線、早来線、沼ノ端線	漸減傾向
町内の地区間移動	循環バス	町内4地区を循環	R1をピークに減少傾向
小地域の移動	デマンドバス	自宅⇄停留所（早来と追分の2エリア）	H30をピークに減少傾向
自由度の高い移動	追分ハイヤー	町内等（運転手欠員で早来は空白状態）	1台当たりの利用減少
その他特定の移動	通園バス、小・中スクールバス、追分高校通学バス、福祉バス（行事用バス）等		

これまでの取り組み 交通体系の再編と役割分担、そして利用促進を中心に様々な取組みを行ってきました。

基本方針	達成度評価指標項目	達成度	主な取り組み内容
①地域内循環システムの効率化	バス（地域内循環システム）の利用者数の増加	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ R1～循環バスの新規運行（せいこドームバスと町内循環線の統合）により再編前に比べて利用者数が増加 ・ H30～追分駅での特急停車本数の増
	J R 駅利用者数の増加	×	
②デマンド交通の効果的運行	デマンドバス登録者数の増加	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ H29～あびらチャンネルCM放映（乗り方紹介、MONETアプリ紹介等） ・ 駅の接続改善、登録や予約の対応拡充
	デマンドバス利用者数の増加	×	
③利用促進策の検討	時刻表・路線図・あびらチャンネル等による情報発信の増加	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ H30～総合時刻表の毎年全戸配布 ・ H30～町民ノーマイカー運動「室蘭線で行こう！うまかまつり」の実施 ・ R1～共通回数乗車券の導入（プレミアム付き鉄道等町内交通で使える券）
	町民や関係機関の参画による公共交通検討機会の増加	○	
④町民協働による意識醸成	安平町の免許返納者数の増加	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ H29～町職員ノーマイカー運動 ・ R1～運転免許自主返納者支援事業 ・ R1～老人クラブやサロン等説明訪問 ・ R2～室蘭線の旅モデルプラン・助成金 ・ 町内団体による駅美化活動
	町民協働の公共交通意識の醸成に係る取組みの増加	○	
	公共交通の利用頻度の向上	×	

■ 安平町における地域公共交通の現状・問題点



妻社 請会	SDGsの推進 <ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の低減 	人口	人口減少・少子高齢化 <ul style="list-style-type: none"> 令和3年11月末現在、7,408人の人口に対して、65歳以上の割合は37.7% 令和12年の推計人口は6,235人（国立社会保障・人口問題研究所推計値） 今後も移住・定住を促進
観光	観光振興・交流 <ul style="list-style-type: none"> 災害や新型コロナウイルス感染症により激減 		
鉄道	平成28年比で全体では約40%が減少している現状 <ul style="list-style-type: none"> 安平町の公共交通の軸として歴史ある鉄道の維持を基本 鉄道の維持・確保に向けた更なる利用促進と接続性の明確化 		<ul style="list-style-type: none"> 室蘭線(岩見沢～沼ノ端間)が維持困難
あつま まバス	事業の維持が困難 <ul style="list-style-type: none"> 平成28年比で全体の約16%が減少 利用減で国の地域間幹線補助が一部カット 鉄道や循環バスとの接続性への配慮 <ul style="list-style-type: none"> ダイヤや運用としての接続の配慮は出来る限り実施している（無線使用や時間融通） 鉄道の遅れ等により実際の接続が良くない場合がある 	循環 バス	きめ細かいサービスの提供 <ul style="list-style-type: none"> 利用者が減少に転じており、自宅や目的地がバス停から遠い、冬は接続までの時間が短いなど、乗車目的等の再確認ときめ細やかなサービス改善が求められている 各地区の集客点にバス停が設置されており、人の4地区間輸送を実施している
デマ ンドバス	予約システムの活用方策の検討 <ul style="list-style-type: none"> MONETスマホ予約アプリを適用しているが、利用促進が進んでいない 運行体制の困難さ <ul style="list-style-type: none"> 安全コストの増嵩、運転手が高齢化など、維持していくことが難しい状況 	ハイ ヤー	住民ニーズと経営事情等のかい離 <ul style="list-style-type: none"> 求人を出してもニーズに合った人手が集まらず、早来市街地内での近距離利用に対応できる体制が構築できない 1台あたりの利用が減少している 長距離利用を優先しており、近距離利用の事前予約には原則対応できない
アン ケート 結果	75歳以上の免許保有率は約49% <ul style="list-style-type: none"> 75歳以上の高齢者の移動手段の確保が必要 高齢になってでも運転を辞めない、辞められない意識が高い 75歳以上は外出の際に移動に困っている <ul style="list-style-type: none"> 約3割が「公共交通は時々が合わない」 2割強が「家族や知人に頼るしかない」 選択と集中による公共交通サービスの拡充 <ul style="list-style-type: none"> ニーズに合わせて時間や曜日運行を検討し、強弱のある運行形態を望んでいる デマンドバスは利用する前の不満感がある <ul style="list-style-type: none"> 登録方法、予約方法、予約のタイミングなど、特に利用者になる前段階のネガティブイメージが強い 	ワ ー ク シ ョ ッ プ 結 果	鉄道と他の公共交通との接続性が分からない 循環バスとデマンドバスの違いが分からない <ul style="list-style-type: none"> あつまバスなどの乗継時間が分からない 循環バスがどこを走っているか分からない 存在も役割分担も認知浸透していない 利用促進の取り組みをもっと進めて欲しい <ul style="list-style-type: none"> 乗り方講座や広報紙等による説明の改善 自分たちで試乗体験会を企画したい 循環バスの改善 <ul style="list-style-type: none"> 自由乗降（手上げで乗降できる）区間を拡充してほしい バスでモノを運べると生産者の輪の広がり と道の駅や物産館の販売促進につながる

■ 地域公共交通の課題



- ① 鉄道の利用を進める方策の検討 …… 町単独のみならず沿線市町や交通事業者間での取組の進化等
- ② あつまバスの維持による鉄道の補完 …… 連携および接続の強化、利用促進や生産性の向上等
- ③ きめ細かなサービスの拡充による循環バス利用者の確保 …… 多様で変化する住民ニーズへの柔軟対応等
- ④ デマンドバスの運用改善 …… 交通体系全体の最適化を念頭に置いたサービスの改善等
- ⑤ 人手不足に対応したデマンドバスとハイヤーの曜日や時間帯別の運用検討 …… 業務改善や人材確保等
- ⑥ 運行情報の見える化等、ICT技術の活用による安心感と利便性の向上 …… 急速に進むデジタル化対応等
- ⑦ ニーズに対応した移動しやすい環境づくり …… 物心両面の対策、福祉輸送と公共交通の狭間への着目等
- ⑧ 環境への配慮、交流・振興 …… 単なる移動手段に留まらない生活交通の延長としての存在価値の向上等
- ⑨ インフラとして質の高いサービス提供とクルマから公共交通への意識改革 …… 認知度向上、誘導策等

■ 基本理念と基本方針

【基本理念を構成する要素】

- ・町民の足・町外からのアクセスとして欠かすことのできない鉄路
- ・町内の移動支援として維持してきたハイヤーやデマンドバス運行
- ・既存資源の活用による移動手段の確保
- ・低炭素でICT技術を活用した将来的にも活躍できる持続可能な地域公共交通の維持・確保

安平町の輸送手段については、左記に掲げた守り育てる要素があり、これらの効果的な連動を図るための基本理念を以下のように設定しました。なお、基本理念は将来に向けた姿勢であり、計画期間満了後も含めて基本的に変わらないものと考えます。

● 基本理念

歴史ある鉄路の維持を基本として、既存輸送資源を存分に活用して、将来の魅力ある地域社会を見据えた便利で利用される公共交通を目指す

▼ 基本方針

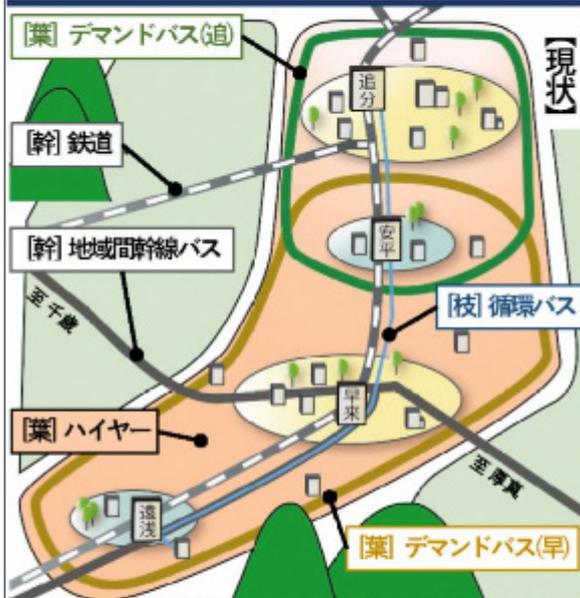
移動目的に合わせた適切な公共交通の維持・改善とICT技術等の多様な連携による利便性が高く、持続可能な地域公共交通の実現

【基本方針の考え方】

- ・これからの5年間はデジタル技術の更なる発展により、MaaS（公共交通やそれ以外のサービスが一括して利用できる概念）やバスロケーションシステム（走行車両の位置情報を知ることができる機能）などが定着していくと考えられます。
- ・環境負荷低減や観光振興が国を挙げて推進され、持続可能な発展が必須になることが想定されます。

総合計画等の上位計画や関連計画のまちづくり計画との連携

■ 現在の公共交通体系と目指す公共交通像



現状
将来

第1期計画が目指し実現してきた将来像については、第2期計画においても基本的に変更はありません。

しかしながら、将来的には、循環バス・デマンドバス・ハイヤーは一体的に捉え、これまでの機能分担を超えた「人の生活を中心に置いた最適化」を選択肢の一つとして検討していきます。（例：朝から昼過ぎまでのコアタイムはハイヤーと循環バスで、量が落ちる休日・夜間は予約制デマンドバスで等）また、「人の移動」のみならず「モノやサービスの移動」を含めて検討していきます。

交通モード	基本目標
鉄道（室蘭線、石勝線） あつまバス（苫小牧線、千歳線等）	幹：幹線の利用促進と維持改善
循環バス ↳ 将来的には一体的に	枝：きめ細かい支線の機能強化
デマンドバス、ハイヤー等	葉：自由度の高い町内交通の高度化
共通：機動的な利用促進策の強化による公共交通の活性化	

【現状】

- ・鉄道と地域間幹線バスが都市間を結ぶが維持困難
- ・循環バスが鉄道の合間を縫って4地区を結んでいる
- ・デマンドバスが2つの乗車エリアで分かれている
- ・ハイヤーが町内全域をカバーするが運転手が欠員

交通体系の再編
役割分担の明確化

輸送資源の総動員
責任と参画意識
へと深化・進化



優先すべき施策（上位2つ）

- 時間や曜日など需要に合わせて便数調整の検討 48.1%
 - 運賃負担を軽減する取組の検討 38.7%
- （アンケート結果より n=486）

通院・買い物先に到着する時間



■ 施策のイメージ

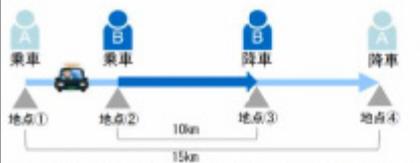
(実施段階で更なる検討を行いますので確約するものではありません)



鉄道やバスが活きる環境づくり



人の移動に合わせた移動手段の提供例



【地点①～④のタクシー運賃が5,000円の場合】

Aの運賃：3,000円(5,000円×15km/25km)

Bの運賃：2,000円(5,000円×10km/25km)

相乗りタクシー制のイメージ



ICT技術による輸送手段の連携イメージ

【施策メニュー】

- ▶ 鉄道・路線バスの接続性や使い方の普及推進のための総合時刻表や乗り方ガイド等の利活用、追高通学バスから列車通学定期券補助への転換、入院医療機関へのアクセス確保 他

【私たちへの影響】

- ▶ 鉄道のあるまち・暮らし
- ▶ 都市機能を楽しめる移動環境の確保

【施策メニュー】

- ▶ 循環バスの自由乗降区間の拡充
- ▶ 生活関連施設（公共施設・医療施設・商業施設等）の立地状況に対応した見直し
- ▶ 貨客混載輸送の検討
- ▶ 曜日・時間の強弱、路線の短絡化と接続など、ニーズ量に応じた運行検討 他

【私たちへの影響】

- ▶ 自宅や目的地と近い乗降環境になり利便性が向上
- ▶ 地域経済の基礎となる移動の確保…商業施設等の維持に貢献

【施策メニュー】

- ▶ デマンドバスの運行エリアや便の運行方向性（自宅⇄停留所）の限定見直し
- ▶ デマンドバス利用者登録の郵送・オンライン対応やMONETスマホ予約サービスの有効活用
- ▶ 町民運賃補助の継続と定額ハイヤー導入検討
- ▶ ダイレクトメール送付等の承諾を前提とした観光者や町民親族への運賃助成制度の検討
- ▶ 相乗りタクシー制の導入検討
- ▶ 兼業運転手や地域おこし協力隊等の活用、2種免許資格取得助成による人材確保検討 他

【私たちへの影響】

- ▶ 高齢者は通院や買い物に行きやすくなる
- ▶ 子どもは教育活動に参加しやすくなる
- ▶ 支える人材と乗客の獲得による自由度の高い移動の確保（移動のセーフティネット構築）

【施策メニュー】

- ▶ MaaSの検討促進（オープンデータ化によるGoogleMap等での時刻検索の実現、バスロケーションシステムや電子掲示板の導入、ポイントあびらとの連携等の検討）
- ▶ 異なること自体も目的となる移動手段の検討（小型電動車やレンタサイクル、馬車等）
- ▶ 町民協働の買い物や試乗体験のツアー企画、スマホ教室の開催 他

【私たちへの影響】

- ▶ ICT技術を活用した便利にお得に利用できるサービスで、公共交通がより身近になる
- ▶ 高齢者等を支えるスマホ教室、紙媒体による情報提供で安心

■ パブリックコメント（意見公募）について

今号では、計画素案の概要をご紹介しました。今後は、皆さんからいただいたご意見を踏まえ、地域の公共交通のあり方について協議を行う「安平町地域公共交通協議会」等において、さらなる検討や整理を経て成案、計画策定へと作業を進めていきます。

- ◆ 安平町地域公共交通計画の素案全文及び詳細な意見募集要項は、安平町ホームページで閲覧できます。郵送も可能ですので、ご希望の方は担当課までご連絡ください。

担当課 政策推進課 政策推進グループ（安平町地域公共交通協議会事務局）
〒059-1501 安平町早来大町95番地 安平町役場総合庁舎
電話：22-2751 FAX：22-2026
電子メール：kikaku@town.abira.lg.jp

- ◆ 意見の提出方法および場所は、担当課への持参、郵送、FAX、電子メールのいずれかにより提出してください。ご意見を正確に把握するため、住所・名前・連絡先を必ず記載してください。お電話での意見受け付けはいたしません。
- ◆ 意見募集の期限は、令和4年4月25日（月）17時15分までとします。意見集約後、寄せられたご意見とその対応や考え方については、町ホームページ等で公表します。

安平町地域公共交通協議会 委員名簿

令和4年4月1日現在

区 分	役 職	所属・役職名	氏 名
町長が指名する者	会 長	安平町副町長	田 中 一 省
室蘭運輸支局長が指名する者	副会長	室蘭運輸支局首席運輸企画専門官	佐 伯 健 一
北海道胆振総合振興局長が指名する者	委 員	北海道胆振総合振興局地域創生部 地域政策課 主幹（地域調整）	石 川 博 志 R4.4.1変更
あつまバス株式会社の代表	委 員	あつまバス株式会社営業部営業課次長	吉 田 章
有限会社追分ハイヤーの代表	委 員	有限会社追分ハイヤー代表取締役	及 川 定 行
北海道旅客鉄道株式会社の代表が指名する社員	委 員	北海道旅客鉄道株式会社 総合企画本部 地域交通改革部専任部長	海 原 邦 夫
地 域 住 民 の 代 表	委 員	安平町追分地区町内会連合会 会長	竹 内 亨
	委 員	安平地区連合自治会 会長	佐々木 弘
	委 員	早来地区自治会連合会 会長	上 田 昭 敬
	委 員	遠浅地区自治連絡協議会 会長	那 須 鏡 一
	委 員	安平町老人クラブ連合会 副会長	西 川 勲
北海道地方交通運輸産業労働組合協議会室蘭地区交通運輸産業労働組合協議会の代表	委 員	北海道地方交通運輸産業労働組合協議会 室蘭地区交通運輸産業労働組合協議会 議長代理	工 藤 幹 彦
道路管理者が指名する職員	委 員	北海道開発局室蘭開発建設部 苫小牧道路事務所長	鈴 木 武 彦 R4.4.1変更
	委 員	北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部 事業室 地域調整課長	辻 亘 R4.4.1変更
北海道警察札幌方面苫小牧警察署長が指名する職員	委 員	札幌方面苫小牧警察署 交通第一課長	伊 藤 昌 彦 R4.4.1変更
学識経験者	委 員	苫小牧工業高等専門学校 創造工学科(都市・環境系) 教授	下 ^{したむら} 夕村 光 弘
交通会議が必要と認める者	委 員	安平町商工会 会長	小 林 正 道

